

水 道 局
下 水 道 局

政令指定都市との上下水道料金比較及び料金減免の実施状況

1 水道料金

(令和7年1月末現在)

都 市	料金体系	基本水量	1か月、口径20mm		適用年月日	料金減免 実施状況
			5 m ³	20 m ³		
東 京 都	口径別	5 m ³	円 1,232	円 2,761	平成17年1月1日	有
札 幌 市	口径別	10 m ³	1,452	3,652	平成9年4月1日	無
仙 台 市	口径別	なし	1,815	4,290	平成10年4月1日	有
さいたま市	口径別	8 m ³	1,188	3,498	平成12年5月1日	有
川 崎 市	用途別	8 m ³	583	2,321	平成22年4月1日	有
横 浜 市	口径別	なし	951	3,017	令和3年7月1日	有
新 潟 市	口径別	なし	3,322	5,005	令和7年1月1日	有
静 岡 市	口径別	なし	1,100	2,607	令和2年10月1日	無
浜 松 市	口径別	なし	924	2,200	平成19年7月1日	有
名古屋市	口径別	6 m ³	1,177	2,915	平成22年10月1日	有
京 都 市	口径別	5 m ³	1,012	3,014	平成25年10月1日	有
大 阪 市	用途別	なし	990	2,112	平成27年10月1日	無
堺 市	口径別	なし	918	2,464	令和元年12月1日	無
神 戸 市	口径別	5 m ³	1,056	2,926	令和6年12月1日	無
岡 山 市	口径別	なし	1,573	3,366	令和6年4月1日	有
広 島 市	口径別	なし	918	2,453	平成22年4月1日	有
北九州市	口径別	なし	1,045	2,442	平成21年4月1日	有
福 岡 市	口径別	なし	1,556	3,355	平成9年4月1日	無
熊 本 市	口径別	なし	1,446	3,014	平成21年9月1日	有

- (注) 1 東京都の料金は、口座割引適用後の金額である。
 2 料金には消費税相当額10%を含む。
 3 各都市宛てに調査を行い、その回答を元に作成した。
 4 千葉市、相模原市については、大部分が県営水道で供給されているため除外した。

2 下水道料金

(令和7年1月末現在)

都 市	料金体系	基本水量	1 か月		適用年月日	料金減免 実施状況
			8 m ³	20 m ³		
東 京 都	従量逦増制	8 m ³	616 円	2,068 円	平成10年6月1日	有
札 幌 市	従量逦増制	10 m ³	660	1,397	平成9年4月1日	有
仙 台 市	従量逦増制	10 m ³	773	1,917	平成14年6月1日	有
さいたま市	従量逦増制	な し	882	2,459	平成26年7月1日	有
千 葉 市	従量逦増制	な し	814	2,140	令和6年4月1日	有
川 崎 市	従量逦増制	8 m ³	726	2,156	平成16年4月1日	有
横 浜 市	従量逦増制	8 m ³	693	2,035	平成13年4月1日	有
相模原市	従量逦増制	8 m ³	754	2,036	平成25年4月1日	有
新 潟 市	従量逦増制	10 m ³	1,309	3,047	平成16年7月1日	有
静 岡 市	従量逦増制	な し	1,325	2,777	平成18年7月1日	有
浜 松 市	従量逦増制	な し	1,573	2,948	平成29年10月1日	有
名古屋市	従量逦増制	10 m ³	616	1,804	平成12年2月1日	有
京 都 市	従量逦増制	5 m ³	748	2,013	平成25年10月1日	有
大 阪 市	従量逦増制	10 m ³	605	1,276	平成15年4月1日	無
堺 市	従量逦増制	な し	1,171	2,821	平成29年10月1日	無
神 戸 市	従量逦増制	5 m ³	616	1,760	令和2年6月1日	無
岡 山 市	従量逦増制	な し	1,137	3,011	平成20年6月1日	有
広 島 市	従量逦増制	6 m ³	775	2,260	平成20年7月1日	有
北九州市	従量逦増制	10 m ³	697	2,248	平成11年11月1日	有
福 岡 市	従量逦増制	な し	950	2,651	平成17年6月1日	有
熊 本 市	従量逦増制	な し	1,007	2,346	平成21年9月1日	有

(注) 1 料金には消費税相当額10%を含む。

2 各都市宛てに調査を行い、その回答を元に作成した。

上下水道料金の減免実績の推移（過去10年間）

1 水道料金減免実績の推移

(単位：件、千円)

内 訳		年 度	2 6	2 7	2 8	2 9	3 0	令和元	2	3	4	5
条 例 分	減 免 件 数		226,260	227,963	228,842	228,661	227,233	225,385	225,553	224,915	224,228	222,766
	減 免 額		3,070,873	3,131,922	3,146,919	3,154,238	3,146,663	3,141,624	3,173,343	3,169,557	3,160,304	3,151,335
決 議 分	減 免 件 数		7,751	7,746	7,729	7,766	7,942	7,915	8,015	8,233	8,544	8,556
	減 免 額		657,460	681,822	689,519	693,660	697,731	698,407	698,268	712,290	711,800	727,513
合 計	減 免 件 数		234,011	235,709	236,571	236,427	235,175	233,300	233,568	233,148	232,772	231,322
	減 免 額		3,728,333	3,813,744	3,836,438	3,847,898	3,844,394	3,840,031	3,871,611	3,881,847	3,872,104	3,878,848

- (注) 1 減免件数は、年度末時点での件数
 2 減免額は消費税込
 3 決議分には、東日本大震災による避難者に対する減免を含む。

2 下水道料金減免実績の推移

(単位：件、千円)

年 度 内 訳		2 6	2 7	2 8	2 9	3 0	令和元	2	3	4	5
集 例 分	減 免 件 数	161,787	162,646	163,504	163,769	162,595	161,065	160,829	160,085	159,144	157,654
	減 免 額	1,166,326	1,189,165	1,194,780	1,199,178	1,195,724	1,192,860	1,201,079	1,196,736	1,190,468	1,182,670
決 議 分	減 免 件 数	9,238	9,085	8,905	8,788	8,998	8,944	8,767	8,850	8,895	8,760
	減 免 額	706,384	735,486	720,108	714,786	715,145	712,843	687,452	682,218	666,317	678,477
合 計	減 免 件 数	171,025	171,731	172,409	172,557	171,593	170,009	169,596	168,935	168,039	166,414
	減 免 額	1,872,710	1,924,651	1,914,888	1,913,964	1,910,869	1,905,703	1,888,531	1,878,954	1,856,805	1,861,147

- (注) 1 減免件数は、年度末時点での件数
2 減免額は消費税込
3 決議分には、東日本大震災による避難者に対する減免を含む。

水道料金滞納状況及び給水停止件数の推移（過去10年間）

（単位：枚、件）

年 度	未納カード発行枚数	給水停止件数
26	557,311	103,714
27	545,957	104,199
28	537,394	105,933
29	528,946	104,627
30	529,123	104,226
令和元	524,161	103,810
2	582,296	85,609
3	599,092	105,104
4	1,180,772	179,566
5	883,003	165,818

上下水道の施設、管路の耐震化状況

1 水道施設の耐震化状況

指標	5年度 (実績)
ろ過池耐震施設率	83%
配水池耐震施設率	83%
管路の耐震継手率	51%

2 下水道施設の耐震化状況

指標		7年度末 までの目標値	5年度末 (累計)
排水を受け入れる 下水道管の耐震化等を 実施した施設数	避難所、災害復旧拠点、一時 滞在施設や災害拠点連携病 院など	5,515か所	5,000か所
マンホールの 浮上抑制対策を 実施した道路延長	緊急輸送道路、無電柱化し ている道路や緊急障害物除 去路線など	1,500km	1,376km

水 道 局
交 通 局
下 水 道 局

公営3局（交通、水道、下水道）それぞれの障害者雇用数と
障害者雇用率（過去5年間）

1 交通局

（単位：人、％）

年	障害者の数	実雇用率
2	80.0	3.90
3	82.0	3.95
4	92.5	4.46
5	90.0	4.36
6	89.0	4.31

（注）「障害者の雇用の促進等に関する法律」の規定に基づき、国に報告した数字である。
（各年6月1日現在）

2 水道局

(単位：人、%)

年	障害者の数	実雇用率
2	83.0	2.98
3	82.0	2.99
4	84.0	3.08
5	87.0	3.27
6	92.0	3.47

(注) 「障害者の雇用の促進等に関する法律」の規定に基づき、国に報告した数字である。
(各年6月1日現在)

3 下水道局

(単位：人、%)

年	障害者の数	実雇用率
2	4 7 . 0	3 . 3 5
3	4 5 . 5	3 . 2 3
4	4 4 . 0	3 . 1 1
5	5 5 . 0	3 . 8 5
6	5 4 . 5	3 . 8 3

(注) 「障害者の雇用の促進等に関する法律」の規定に基づき、国に報告した数字である。
(各年6月1日現在)

避難所応急給水栓及び応急給水用資器材の設置状況

	設置数
避難所応急給水栓及び応急給水用資器材	2, 0 3 6

- (注) 1 対象は、23 区及び都営水道 26 市町である。
- 2 設置数は、区市町等との合意に基づき、施工上の制約等を踏まえた上で、応急給水栓を設置した数である。
- 3 応急給水栓 1 か所につき、応急給水用資器材一式を配布している。

東京都の下水道管路延長のうち、管径2000mm以上の割合

令和5年度末：約7%

東京都の下水道管路のうち、管径800mm以上の下水道管の調査
延長

令和5年度：約276km

公立小・中学校の35人学級に必要な学級数、教員数及び経費

<小学校>

(単位：学級、人、百万円)

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
学級数	35人学級	—	—	—	—	—	3,419	3,419
	40人学級	—	—	—	—	—	3,117	3,117
	差	—	—	—	—	—	302	302
学級増に伴う教員の増人数		—	—	—	—	—	329	329
必要経費		—	—	—	—	—	1,887	1,887

<中学校>

(単位：学級、人、百万円)

		1年	2年	3年	計
学級数	35人学級	—	2,482	2,536	5,018
	40人学級	—	2,201	2,261	4,462
	差	—	281	275	556
学級増に伴う教員の増人数		—	426	417	843
必要経費		—	2,806	2,747	5,553

注1 小学校第1学年から第5学年まで及び中学校第1学年を除く。

注2 校種別・学年別の学級数は、「令和6年度教育人口等推計」に基づく令和7年度推計学級数である。

注3 「学級増に伴う教員の増人数」は、40人学級を継続した場合と35人学級を実施した場合との差に、令和7年度予算案による定数の1学級当たりの平均一般教員数を乗じて算出した（小学校第6学年を除く。）。

注4 「必要経費」は、教員増に伴う経費のみであり、教員一人当たりの経費は、令和7年度予算案による小・中学校の各新規採用教員単価を使用して算出した。

東京都公立小・中学校児童・生徒の就学援助受給者の推移
(平成26年度～令和5年度)

(単位:人、%)

年 度	児 童 ・ 生 徒 数				受 給 率		
	全 体	要保護	準要保護	計	要保護	準要保護	計
平成26年度	795,132	15,321	155,616	170,937	1.9	19.6	21.5
平成27年度	799,588	14,435	149,270	163,705	1.8	18.7	20.5
平成28年度	801,371	14,003	140,803	154,806	1.7	17.6	19.3
平成29年度	805,156	13,017	134,237	147,254	1.6	16.7	18.3
平成30年度	809,639	12,096	134,182	146,278	1.5	16.6	18.1
令和元年度	813,688	11,398	129,463	140,861	1.4	15.9	17.3
令和2年度	821,600	10,590	131,449	142,039	1.3	16.0	17.3
令和3年度	830,004	9,747	126,955	136,702	1.2	15.3	16.5
令和4年度	832,443	8,973	120,523	129,496	1.1	14.5	15.6
令和5年度	831,294	8,494	112,564	121,058	1.0	13.5	14.6

注1 就学援助は、区市町村が、経済的理由によって就学困難と認められる学齢児童・生徒の保護者に対して行う学用品等購入のための援助である。

要保護は、生活保護法第6条第2項に該当する場合である。

準要保護は、生活保護は受けていないが、児童・生徒の居住する区市町村が、独自の基準により要保護に準ずる程度に援助を必要とする状態にあると認定した場合である。

注2 児童・生徒数の全体欄は、各年度における5月1日現在の児童・生徒数である。児童・生徒数の要保護欄は、各年度において教育扶助を受けた児童・生徒数、準要保護欄は、各年度において準要保護の児童・生徒として就学援助を受けた児童・生徒数である。

受給率は、児童・生徒数の全体に対する要保護、準要保護の児童・生徒数の割合である。

なお、要保護、準要保護及び計の児童・生徒数それぞれについて算出しているため（小数点以下第2位で四捨五入）、要保護と準要保護の受給率の合計が計の受給率と一致しない場合がある。

注3 就学援助を行う区市町村に対しては、国が、「就学困難な児童及び生徒に係る就学奨励についての国の援助に関する法律」に基づき、平成16年度までは要保護者及び準要保護者の援助に必要な経費の2分の1を補助していたが、平成17年度以降は制度改正により要保護者の援助に必要な経費のみが補助対象となった。また、準要保護者の援助に必要な経費についての国の財政措置は、補助金から一般財源化された。

注4 上記の各数値は、文部科学省が実施した「就学援助実施状況調査」によるものである。

令和5年度就学援助費目の設定状況

区市町村	学用品費	通学用品費	校外活動費(宿泊を伴わない)	校外活動費(宿泊を伴う)	通学費	修学旅行費	体育実技用具費	新入学児童生徒学用品費	クラブ活動費	生徒会費	P T A 会費	医療費	学校給食費	卒業アルバム費	その他
千代田区	○	○	○	○		○		○				○	○	○	
中央区	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○
港区	○	○	○	○		○	○	○				○	○	○	○
新宿区	○		○	○	○	○		○	○			○	○	○	○
文京区	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○
台東区	○	○	○	○	○	○		○	○			○	○	○	○
墨田区	○		○	○		○	○	○	○			○	○	○	○
江東区	○		○					○	○				○	○	○
品川区	○		○	○	○	○	○	○					○	○	○
目黒区	○	○	○	○		○	○	○	○				○	○	○
大田区	○		○		○	○	○	○	○			○	○	○	○
世田谷区	○		○	○	○	○	○	○					○	○	○
渋谷区	○	○	○	○	○	○		○	○				○	○	○
中野区	○		○	○	○	○		○	○			○	○	○	○
杉並区	○		○	○	○	○	○	○				○	○	○	○
豊島区	○		○	○		○	○	○	○				○	○	○
北区	○		○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○
荒川区	○	○	○	○	○	○		○	○			○	○	○	○
板橋区	○				○	○	○	○				○	○	○	○
練馬区	○	○				○	○	○				○	○	○	○
足立区	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○
葛飾区	○		○	○	○	○	○	○				○	○	○	○
江戸川区	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○
区部計	23	11	21	19	16	23	15	23	15	0	1	16	23	21	18
八王子市	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○
立川市	○		○	○		○		○				○	○	○	○
武蔵野市	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○
三鷹市	○	○	○	○		○	○	○				○	○	○	○
青梅市	○	○	○	○	○	○		○				○	○	○	○
府中市	○		○	○	○	○		○				○	○	○	○
昭島市	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○
調布市	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○
町田市	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○
小金井市	○	○	○	○	○	○		○				○	○	○	○
小平市	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○
日野市	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○
東村山市	○	○	○	○	○	○		○				○	○	○	○
国分寺市	○	○	○	○		○		○				○	○	○	○
国立市	○	○	○	○		○		○				○	○	○	○
福生市	○	○	○	○		○		○				○	○	○	○
狛江市	○		○	○	○	○	○	○				○	○	○	○
東大和市	○	○	○	○	○	○		○				○	○	○	○
清瀬市	○	○	○	○		○		○				○	○	○	○
東久留米市	○		○	○	○	○		○				○	○	○	○
武蔵村山市	○		○	○		○		○				○	○	○	○
多摩市	○	○	○		○	○		○				○	○	○	○
稲城市	○	○	○	○	○	○		○				○	○	○	○
羽村市	○	○	○	○		○		○				○	○	○	○
あきる野市	○	○	○	○	○	○		○				○	○	○	○
西東京市	○	○	○	○	○	○		○				○	○	○	○
市部計	26	21	25	25	19	26	9	26	0	0	0	23	26	12	15
瑞穂町	○	○		○		○		○				○	○		
日の出町	○	○	○	○	○	○		○					○		
檜原村	○	○				○	○	○			○		○		
奥多摩町	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○		
大島町	○	○	○	○		○		○	○	○	○		○		
利島村	○	○						○			○		○		
新島村	○	○	○					○					○		
神津島村	○							○							
三宅村	○							○							
御蔵島村	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
八丈町	○	○	○	○			○	○	○		○		○	○	
青ヶ島村	○	○				○		○		○	○	○	○		
小笠原村	○	○				○		○				○			
町村計	13	10	6	6	3	8	4	13	4	3	7	4	9	1	0
合計	62	42	52	50	38	57	28	62	19	3	8	43	58	34	33

その他の例

夏季施設参加費、遠足費、メガネ購入費、演劇鑑賞費、音楽鑑賞費、校内鑑賞教室費、芸術鑑賞費、林間施設費、アレルギー診断料、学校生活管理指導表作成費、修学旅行支度金、教材費、副教材費、臨海学校費、移動教室費、スケート教室費、新入学準備金

備考

- ・ 御蔵島は、全児童・生徒に援助
- ・ へき地児童生徒援助費等補助制度において修学旅行費を支給している町村では、就学援助において修学旅行費を援助費目として設けていない町村もある。

公立学校教育費における公費負担と私費負担の推移（過去3年間）

1 園児・児童・生徒一人当たり経費（幼稚園・小学校・中学校）

（単位：円）

区 分		令和3年度			令和4年度			令和5年度		
		幼稚園	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校
公 費	合 計	1,344,595	1,111,880	1,415,928	1,660,314	1,090,876	1,341,258	—	—	—
	国庫補助金	21,987	155,824	191,706	15,011	151,500	190,459	—	—	—
		1.6%	14.0%	13.5%	0.9%	13.9%	14.2%	—	—	—
	都支出金	1,940	429,901	555,196	3,347	441,188	546,437	—	—	—
		0.1%	38.7%	39.2%	0.2%	40.4%	40.7%	—	—	—
	区市町村支出金	1,318,552	502,144	614,795	1,637,031	485,593	580,694	—	—	—
		98.1%	45.2%	43.4%	98.6%	44.5%	43.3%	—	—	—
	地方債	2,115	23,858	54,189	4,925	12,557	23,425	—	—	—
私 費		0.2%	2.1%	3.8%	0.3%	1.2%	1.7%	—	—	—
	公費組入れ寄附金	1	152	42	0	37	243	—	—	—
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	—	—	—
	合 計	15,821	65,930	92,369	—	—	—	17,936	72,025	114,665
	授業料	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	受益者負担額	13,017	64,507	90,987	—	—	—	13,213	70,040	112,804
		82.3%	97.8%	98.5%	—	—	—	73.7%	97.2%	98.4%
	P T A活動費等	2,803	1,423	1,383	—	—	—	4,723	1,985	1,861
		17.7%	2.2%	1.5%	—	—	—	26.3%	2.8%	1.6%

2 生徒一人当たり経費（高等学校）

（単位：円）

区 分		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		高等学校 (全日制)	高等学校 (定時制)	高等学校 (全日制)	高等学校 (定時制)	高等学校 (全日制)	高等学校 (定時制)
公 費	合 計	1,290,637	2,621,796	1,292,862	2,490,039	1,203,439	2,373,365
	国庫補助金	5,099	8,457	4,387	7,497	4,096	6,956
		0.4%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%
	都支出金	1,189,870	2,255,479	1,236,639	2,292,372	1,151,916	2,193,222
		92.2%	86.0%	95.7%	92.1%	95.7%	92.4%
	区市町村支出金	—	—	—	—	—	—
	地方債	95,668	357,860	51,836	190,170	47,427	173,186
		7.4%	13.6%	4.0%	7.6%	3.9%	7.3%
私 費	公費組入れ寄附金	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—
	合 計	70,516	29,283	—	—	103,063	45,701
	授業料	30,208	6,405	31,226	7,309	32,473	7,732
		42.8%	21.9%	—	—	31.5%	16.9%
	受益者負担額	38,387	22,711	—	—	67,881	37,669
		54.4%	77.6%	—	—	65.9%	82.4%
	P T A活動費等	1,921	167	—	—	2,709	300
		2.7%	0.6%	—	—	2.6%	0.7%

注1 公費は、文部科学省「地方教育費調査」による。令和5年度については現在審査中であるが、高等学校（全日制・定時制）のみ暫定値を記載した。

(1) 国庫補助金・・・・・・国が交付した補助金・負担金等

(2) 都支出金・・・・・・都が支出した経費

(3) 区市町村支出金・・・・・・区市町村が支出した経費

(4) 地方債・・・・・・教育施設建設等のために起債した経費のうち、当該年度支出分

(5) 公費組入れ寄附金・・・・・・歳入として決算に計上された寄附金・贈与金のうち、当該年度支出分

注2 私費の「授業料」は、「東京都一般会計決算説明書」の授業料収入済額から就学支援金交付金の支給額を除いて算出した。

注3 私費の「受益者負担額」及び「P T A活動費等」は、東京都教育委員会「保護者が負担する学校教育費調査（学校等納付金調査）」による。令和4年度から調査を隔年実施としたため、令和5年度（令和4年度経費）の調査は実施していない。

また、保護者が負担した経費に公的補助金を加えた金額である。

(1) 受益者負担額・・・・・・教材・クラブ活動・修学旅行・学校給食費のように利益が児童・生徒に還元される性質の経費

(2) P T A活動費等・・・・・・「P T A」等の固有の活動や運営のために支出された経費等

注4 その他

(1) 上段の一人当たりの金額については、小数点以下第1位を四捨五入した。そのため、個々の項目の数値を合算しても合計と一致しない場合がある。

(2) 下段の斜体数字（％）は、内訳の構成比で、小数点以下第2位を四捨五入した。そのため、各構成比率を合計しても、100にならない場合がある。

公立小・中学校での学校図書館司書の配置状況

	学校数	学校司書配置学校数	割合
小学校	1, 262 校	488 校	38. 7%
中学校	606 校	280 校	46. 2%
義務教育学校（前期課程）	8 校	1 校	12. 5%
義務教育学校（後期課程）	8 校	1 校	12. 5%
中等教育学校（前期課程）	6 校	6 校	100. 0%

注 1 文部科学省「令和 5 年度公立学校における学校司書の配置状況に関する調査」による。

注 2 令和 5 年 5 月 1 日現在

都立高校において、学校司書を民間委託した学校数の推移

1 司書の配置等状況

	学校数 (校)	正規職員配置校数 (校)		委託校数 (校)	募集停止 校数 (校)	島しょ地 域校数 (校)	臨時職員 等配置校 数 (校)	都立学校 図書館専 門員配置 校 (校)
			うち再任 用職員数 (人)					
平成27年度	189	104	39	80	0	5	0	-
平成28年度	189	86	33	97	0	5	1	-
平成29年度	189	78	26	105	0	5	1	-
平成30年度	189	64	19	119	0	4	2	-
令和元年度	189	60	21	123	0	5	1	-
令和2年度	188	54	14	128	0	2	4	-
令和3年度	189	45	10	128	0	2	4	10
令和4年度	189	43	16	42	0	2	4	98
令和5年度	189	40	16	0	0	2	4	143
令和6年度	189	38	13	0	0	2	2	147

注1 学校数については、全日制・定時制併設校は1校として数えている。

注2 募集停止校・島しょ地域校については、正規職員を置いていない。

注3 臨時職員等配置校は、正規職員ではなく、臨時職員等を置いている。

2 民間委託した学校数

委託開始年度	学 校 名	学校数
平成16年度	新宿山吹	1
平成23年度	葛飾商業、葛飾野、青井、城東、深川、大崎、北園、大泉桜、目黒、中野工業、松が谷、南平、山崎、町田工業、多摩、福生、調布南、府中工業	18
平成24年度	六郷工科、八王子拓真、翔陽、墨田工業、松原、東久留米総合、一橋、野津田、東村山、つばさ総合、飛鳥、第四商業、江戸川、荒川商業、砂川、武蔵丘、足立工業、千早、淵江、小平南、葛飾総合	21
平成25年度	本所、南葛飾、八潮、六本木、田園調布、荻窪、調布北、豊島、赤羽商業、片倉、富士森、青梅総合	12
平成26年度	足立新田、葛西南、上野、杉並総合、農芸、田柄、八王子桑志、拝島、武蔵野北	9
平成27年度	橘、大森、農産、蔵前工業、篠崎、紅葉川、桐ヶ丘、桜町、園芸、狛江、練馬工業、板橋有徳、瑞穂農芸、若葉総合、府中西、田無工業、五日市、日野台、多摩科学技術	19
平成28年度	向丘、江北、江東商業、晴海総合、芝商業、石神井、戸山、練馬、富士、総合芸術、千歳丘、大山、日野、第五商業、田無、小平西、八王子北	17
平成29年度	忍岡、第三商業、小山台、世田谷泉、深沢、清瀬、武蔵村山、町田	8
平成30年度	足立西、荒川工業、東、芦花、第一商業、総合工科、大泉、稔ヶ丘、文京、羽村、久留米西、東村山西、府中、永山	14
令和元年度	雪谷、浅草、上水、保谷	4
令和2年度	青山、蒲田、大田桜台、日本橋、王子総合、杉並工業	6
令和3年度	新規委託校なし	0
令和4年度	新規委託校なし	0
令和5年度	新規委託校なし	0
令和6年度	新規委託校なし	0

都立図書館、区市町村立図書館の資料購入費の推移（過去 1 0 年間）

（単位：百万円）

年 度	都立図書館	区市町村立図書館	合 計
平成 2 7 年度	319	4, 135	4, 454
平成 2 8 年度	322	4, 181	4, 503
平成 2 9 年度	322	4, 206	4, 528
平成 3 0 年度	322	4, 182	4, 504
令和元年度	322	4, 286	4, 608
令和 2 年度	322	4, 333	4, 655
令和 3 年度	318	4, 112	4, 429
令和 4 年度	318	4, 268	4, 585
令和 5 年度	318	4, 275	4, 593
令和 6 年度	342	4, 306	4, 648
令和 7 年度予算案	373	—	—

注 1 数値は各年度の当初予算額である。

注 2 都立図書館の数値は、オンラインDB等の電子資料を含むものである。

注 3 区市町村立図書館の数値は、「東京都公立図書館調査」による。

注 4 合計数値は、端数処理により一致しない年度がある。

都内小・中学校及び都立高校、特別支援学校における図書購入費の推移（過去 1 0 年間）

（単位：百万円）

年 度	小学校	中学校	都立高校	特別支援学校
平成 2 6 年度	855	499	169	10
平成 2 7 年度	852	499	165	16
平成 2 8 年度	863	476	216	18
平成 2 9 年度	845	449	210	14
平成 3 0 年度	854	448	210	15
令和元年度	934	482	211	14
令和 2 年度	917	482	215	18
令和 3 年度	864	442	206	18
令和 4 年度	901	468	201	19
令和 5 年度	—	—	203	—

注 1 都内小学校・中学校及び特別支援学校は、公立学校である。

注 2 文部科学省「地方教育費調査」による。令和 5 年度については現在審査中であるが、都立高校のみ、暫定値を記載した。

東京都教育委員会における障害者雇用の実績と雇用率の推移
(過去10年間)

(単位:人、%)

	① 法定雇用障害者数の 算定の基礎となる職員数	② 障害者の数	③ 実雇用率	④ 不足数
平成27年	43,082.5	897.5	2.08	49.5
平成28年	43,238.5	919.5	2.13	31.5
平成29年	43,370.5	960.5	2.21	0.0
平成30年	43,721.0	929.5	2.13	119.5
令和元年	47,883.5	910.5 (41.0)	1.90	238.5
令和2年	48,487.0	899.5 (61.0)	1.86	263.5
令和3年	48,966.5	889.0 (87.0)	1.82	335.0
令和4年	49,107.0	904.5 (115.0)	1.84	322.5
令和5年	49,623.0	965.5 (150.0)	1.95	274.5
令和6年	50,548.0	985.5 (165.0)	1.95	378.5

注1 法定雇用率は平成26年から平成29年が2.2%、平成30年から令和2年が2.4%、令和3年から令和5年が2.5%、令和6年が2.7%である。

注2 数字は各年の6月1日時点である。

注3 ①は職員総数から除外率相当職員数を除いた職員数である。

なお、令和元年9月に、障害者雇用率算定にかかる「常時勤務する職員」の考え方について新たな解釈が示されたため、令和元年分から同解釈に基づき算定し、同年の職員数が前年に比べて大幅に増加している。

注4 ②は、身体、知的、精神障害者の合計であり、短時間勤務職員以外の重度身体、知的障害者は1人を2人に相当するものとしてダブルカウントする。短時間勤務職員である重度身体、知的障害者は1人を1カウントする。重度以外の身体、知的障害者である短時間勤務職員については、1人を0.5人に相当するものとして、0.5カウントする。短時間勤務職員である精神障害者は1人を1カウントする。

注5 ②の括弧数字(令和元年以降)は、障害者の数の内数であり、教育庁サポートオフィス(平成30年10月開設)における障害者数を注4の方法でカウントした人数である。

注6 ④は①に法定雇用率を乗じて得た数(1未満の端数は切り捨て)から②を減じて得た数。数が0を下回る場合0を記載。これが0.0となることで法定雇用率達成となる。

東京都中学校長会都立高校全日制等志望予定（第1志望）調査における通信制高校の志望予定者数及び通信制高校進学者数の推移
（過去10年間）

（単位：人）

対象者の中学校 卒業年度	種別	志望予定者数	進学者数
平成26年度	都立	27	168
	都立以外	522	1,202
	合計	549	1,370
平成27年度	都立	54	137
	都立以外	725	1,690
	合計	779	1,827
平成28年度	都立	43	233
	都立以外	937	1,921
	合計	980	2,154
平成29年度	都立	49	161
	都立以外	1,498	2,179
	合計	1,547	2,340
平成30年度	都立	48	198
	都立以外	1,773	2,678
	合計	1,821	2,876
令和元年度	都立	59	163
	都立以外	1,843	3,114
	合計	1,902	3,277
令和2年度	都立	78	147
	都立以外	2,388	3,546
	合計	2,466	3,693
令和3年度	都立	89	163
	都立以外	2,734	4,058
	合計	2,823	4,221
令和4年度	都立	117	245
	都立以外	3,143	4,586
	合計	3,260	4,831
令和5年度	都立	119	297
	都立以外	3,675	5,157
	合計	3,794	5,454

注 通信制高校進学者数は、東京都教育委員会「公立学校統計調査」による。

教育ダッシュボードを利用している都立学校数
(令和 5 年度以降)

年度	都立学校数
令和 5 年度	19 校
令和 6 年度	86 校

注 1 教育ダッシュボードは令和 6 年 1 月から順次導入している。

注 2 導入対象校は高等学校、中等教育学校、附属中学校、附属小学校

東京都バーチャル・ラーニング・プラットフォーム実施状況について、年度別、自治体名、アカウント数の一覧（令和 4 年度～令和 6 年度）

年度	実施自治体	アカウント数 (児童・生徒・教職員等)
令和 4 年度	新宿区	259
令和 5 年度	新宿区、墨田区、渋谷区、中野区、杉並区 八王子市、狛江市、多摩市、東京都	1,580
令和 6 年度	千代田区、新宿区、台東区、墨田区、江東区 品川区、大田区、渋谷区、中野区、杉並区、豊島区、北区 荒川区、足立区、江戸川区、八王子市、立川市 府中市、小金井市、小平市、国分寺市、国立市 狛江市、武蔵村山市、多摩市、羽村市 あきる野市、日の出町、東京都	3,860

注 1 バーチャル・ラーニング・プラットフォームは令和 4 年度から実施している。

注 2 アカウントとは、バーチャル・ラーニング・プラットフォームに入るために、児童・生徒等に配布する、アルファベットや数字などで書かれた I D

注 3 教職員等とは、教育支援センター職員、日本語指導を担当する教員等

東京都中学校英語スピーキングテスト事業の予算、決算、参加学校数、受験者数、会場数（会場の種類ごと）、スタッフ数（事業開始以降の各年度）

1 予算及び決算

（単位：円）

年度	予算額	決算額
令和元年度（プレテスト）	155,757,000	38,657,509
令和2年度（確認プレテスト①）	156,640,000	74,648,566
令和3年度（確認プレテスト②）	418,157,000	388,444,772
令和4年度	576,030,000	537,311,723
令和5年度	3,567,835,000	2,830,414,154
令和6年度	4,323,558,000	—
令和7年度	3,767,148,000	—

注 令和6年度及び令和7年度の予算は当初予算額である。

2 参加学校数、受験者数、会場数、スタッフ数

（単位：校、人、箇所）

年度	参加 学校数	受験者数	会場数				スタッフ 数
			総 数	(内 訳)			
				中学校	都立学校	外部会場	
令和元年度	77	7,400	77	75	1	1	776
令和2年度	101	9,175	101	96	0	5	126
令和3年度	592	63,721	560	505	54	1	9,064
令和4年度	—	71,197	210	6	162	42	—
令和5年度	—	71,205	242	5	194	43	—
令和6年度	—	70,741	245	7	193	45	—

注1 いずれの年度も、複数日に実施をした合計である。

注2 令和4年度以降の参加学校数については、集計していない。

注3 令和4年度以降のスタッフ数については、事業者からの報告を求めている。

注4 データは3年生対象のテストのみである。

都内公立中学校 3 年生における生徒数及び令和 6 年度中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J YEAR 3) 受験者数、都立高等学校入学者選抜における ESAT-J YEAR 3 の結果活用に関する措置申請の申請者数、申請せずに受験しなかった生徒数

(単位 : 人)

(1)	都内公立中学校 3 年生における生徒数	7 9, 5 6 5
(2)	令和 6 年度中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J YEAR 3) 受験者数	7 0, 7 4 1

注 1 「都内公立中学校 3 年生における生徒数」は、令和 6 年 5 月 1 日現在の人数

注 2 「都立高等学校入学者選抜における ESAT-J YEAR 3 の結果活用に関する措置申請の申請者数」は公表していない。また、申請せずに受験しなかった生徒数は把握していない。

中学校英語スピーキングテストを受験した国私立中学 3 年生の人数、特別支援学校中学部 3 年生の人数、公立中学校の体験受験の人数

生徒の属性に関わる事項となるため、公表していない。

東京都中学校英語スピーキングテスト事業の令和7年度予算額のうち、中学校
3年生のテストと、1、2年生のテストそれぞれの金額と積算根拠

(単位：千円)

主な事項	中学校 1、2 年生	中学校 3 年生	共通	合計
管理運営事務費	—	—	18,644	18,644
広報用資料作成	—	6,150	54,229	60,379
資料等郵送費	—	3,288	5,000	8,288
会場使用料	—	—	1,964	1,964
分担金	—	117,906	3,559,967	3,677,873
合計	—	127,344	3,639,804	3,767,148

中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J YEAR 3）について、令和4年度から令和6年度までの実施日別の平均点及び前半・後半の平均点並びに年度ごとの平均点

1 実施日別の平均スコア

	実施日	平均スコア
(1)	令和4年11月27日（本試日）	60.7

注 令和4年12月18日（予備日）以降については、実施日別の平均スコアは算出していない。

2 前半・後半の平均スコア

	実施日	前半	後半
(1)	令和4年11月27日（本試日）	60.78	60.77

注 令和4年12月18日（予備日）以降については、前半・後半別の平均スコアは算出していない。

3 年度ごとの平均スコア

	年度	平均スコア
(1)	令和4年度	60.5
(2)	令和5年度	65.2
(3)	令和6年度	68.3

中学校英語スピーキングテスト（E S A T－J Y E A R 3）について、令和
4 年度から令和 6 年度までの再受験対象の人数と理由と件数

（単位：人）

	年 度	再受験対象の人数	理 由
(1)	令和 4 年度	2 7	機器の不具合（疑い例を含む）、イヤーマフ・イヤホンの装着関連、現場対応の誤りなど
(2)	令和 5 年度	6 0	機器の不具合（疑い例を含む）、イヤーマフ・イヤホンの装着関連、現場対応の誤りなど
(3)	令和 6 年度	2 5 5	機器の不具合（疑い例を含む）、現場対応の誤りなど

令和 6 年度の中学校 3 年生の中学校英語スピーキングテスト（E S A T－J
Y E A R 3）において、都教委が謝罪と再試験の手紙を出した枚数とその基準

生徒の受験状況に関わる個別具体的な内容となるため、公表していない。

中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J YEAR 3）における令和4年度から令和6年度までの再受験対象のうち、受験希望者数、受験者数、受験日

生徒の受験状況に関わる個別具体的な内容となるため、公表していない。

教 育 庁

不登校特例校、チャレンジクラス配置校、不登校対応巡回教員担当校、
不登校対応加配教員配置校、教育支援センター、フリースクール等協議会に
参加しているフリースクール等団体一覧（令和6年度）

第1回

No.	施設の名称
1	HSC対応リベラルスクール
2	NPO星槎教育研究所せいさフリースクール八王子
3	NPO法人Woods
4	NPO法人フリースクール鈴蘭学園
5	NPO法人フリースペースロビンソン
6	NPO法人元気プログラム作成委員会カウンセリング研修センター学舎ブレイブ
7	NPO法人東京コミュニティスクール
8	NPO法人東京シュレー
9	NPO法人文化学習協同ネットワーク フリースペースコスモ
10	イエナスクールゆめまる
11	エノコログサ
12	おおぞらみらいスクール立川キャンパス
13	サドベリースクール アルママ
14	のびーくフリースクール
15	ヒューマンアカデミーフリースクール
16	フリースクール あすばる
17	フリースクール・ワイズアカデミー
18	フリースクールゆうがく
19	フリースペースしんじゅく
20	一般社団法人子ども教育支援機構 クラーク国際中等部
21	一般社団法人フリースクールIFラボ
22	一般社団法人マザーシップ
23	一般社団法人寺子屋いづみ
24	学校法人 八洲学園 八洲学園高等学校(中等部)
25	学校法人角川ドワンゴ学園 N中等部
26	学校法人三幸学園 東京未来大学みらいフリースクール
27	学校法人三幸学園飛鳥未来中等部・初等部 立川教室
28	学習支援塾ビーンズ
29	株式会社学研ココファン・ナーサリー
30	元気学園
31	合同会社GRES フリースクールGRES
32	心と学びの支援センター
33	星槎国際高校中野キャンパスフェリーチェ高等学院
34	星槎中野サテライトキャンパスフェリーチェフリースクール
35	第一学院高等学校 秋葉原キャンパス
36	滝野川高等学院
37	特定非営利活動法人ウイズアイ
38	特定非営利活動法人ならはらの森なかの学舎
39	日本教育ケア協会『ソフィア義塾』
40	認定NPO法人子どもへのまなざし
41	有限会社考学舎

注 団体の名称は、原則として、参加者の申込の際に、担当者が記入した団体の名称を使用している。

教員の新規採用者・退職者の男女比率の推移（過去 3 年間）

（１）新規採用者

	男性比率	女性比率
令和 4 年 度	46. 7%	53. 3%
令和 5 年 度	45. 4%	54. 6%
令和 6 年 度	50. 9%	49. 1%

注 各年度 4 月 1 日採用者の比率

（２）退職者

	男性比率	女性比率
令和 3 年 度	49. 4%	50. 6%
令和 4 年 度	46. 1%	53. 9%
令和 5 年 度	37. 6%	62. 4%

注 各年度の退職者で退職手当の支給を受けた者の合計から算出

都立全日制普通科高等学校の男女別生徒数と
トイレ（個室）の数

(単位：人、室)

区 分	男子	女子	合計
生徒数	45,035	45,831	90,866
トイレの個室の数	3,513	6,857	10,370

注1 生徒数については、東京都教育委員会「令和6年度 公立学校統計調査報告書
【学校調査編】（令和6年5月1日現在）」による。

注2 トイレの個室の数については、令和6年4月1日現在の数値である。

中学校英語スピーキングテストの事業者からの報告書（令和 5 年度）

令和5年度
「中学校英語スピーキングテスト」
最終報告書

株式会社ベネッセコーポレーション

令和6年3月

**令和5年度「東京都中学校英語スピーキングテスト事業」
最終報告書 目次**

1. 中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の試験問題と結果	
(1) 試験問題	2
(2) 結果	5
(3) 試験時間について	39
(4) 採点と点検	40
2. 中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の実施・運営体制	
(1) 実施概要	41
(2) 受験会場	41
(3) 実施方式	51
(4) 特別措置を要する生徒への対応	57
(5) 監督者	59
(6) 結果返却	61
(7) 問合せ対応	64
3. 中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の受験者対応・情報発信	
(1) 問題・採点基準の公開	70
(2) 周知	70
(3) 音声データの提供	72
(4) 結果の活用	73
4. まとめ	74
5. 令和元年度から令和5年度の総括	74

1. 中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) の試験問題と結果

(1) 試験問題

■出題方針

中学校の教育課程に基づく学習の成果としての「話すこと」に関する力を測ることとしている。

■令和5年度の東京都中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) の出題内容、問題数及び実施時間

Part	出題内容	問題数	準備・解答時間	合計実施時間
Part A 音読	状況や英文を理解した上で、英語音声の特徴を踏まえ音読ができる力をみる。	2 問	準備時間：各 30 秒 解答時間：各 30 秒	約 17 分
Part B 質問を聞いて応答する	図示された情報を読み取り、それに関する質問を聞き取った上で、適切に応答する力や、図示された情報をもとに、「質問する」、「考えや意図を伝える」、「相手の行動を促す」など、やり取りする力をみる。	4 問 ※うち、 受験者が 質問をする問題を 1 問出題	準備時間：各 10 秒 解答時間：各 10 秒	
Part C ストーリーを英語で話す	日常的な出来事について、話の流れを踏まえて相手に伝わるように状況を説明する力をみる。	1 問	準備時間：30 秒 解答時間：40 秒	
Part D 自分の意見を述べる	身近なテーマに関して聞いたことについて、自分の意見とその意見を支える理由を伝える力をみる。	1 問	準備時間：60 秒 解答時間：40 秒	

※実施時間とは Part A が始まってから、Part D が終了するまで（例題含む）の時間である。

■採点基準

実際の言語使用場面を前提とし、英語コミュニケーション能力を測定することを目的としたテストであることを踏まえ、「聞き手に主張や情報が伝わるか」と「聞き手に主張や情報を効果的に伝えられているか」を評価することを方針とした。

令和5年度 中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) 採点基準

■コミュニケーションの達成度 (Part B, Part C, Part D)

	x(0)	O(1)
Part B	・各設問の問いかけに適切な内容を伝えることができている。 ・相手に適切な行動を促すことができている。 ・各コマのイラスト (事実) を伝えることができている。	・各設問の問いかけに適切な内容を伝えることができている。 ・相手に適切な行動を促すことができている。 ・各コマのイラスト (事実) の内容を伝えることができている。
Part C	・意見 (自分の考え) を伝えることができている。 ・意見 (自分の考え) をサボートする理由を伝えることができている。	・意見 (自分の考え) を伝えることができている。 ・意見 (自分の考え) をサボートする理由を伝えることができている。

※問題意図に沿って解答でき
ていれば、解答は単語・センテ
ンスのどちらでもよいとする。
※各コマのイラストについて判
断する。

■言語使用 (Part C, Part D)

	x(0)	△(1)	○(2)	○(3)	○(4)
	・求められている解答内容が ら明らかなに外れている。 ・英語ではない、あるいは、英 語として通じない。 ・力を測るための十分な量の 発話がない。	・使用している語彙や表現の 幅が限られているが、簡単な 接続詞を使って、単語や語 句をつなげることができる。 ・簡単な事柄なら言い表すこ とができる。 ・語彙や文構造及び文法の 使い方に誤りが非常に多い。	・使用している語彙・表現や 文法の幅が限られているが、 簡単な接続詞を使って、アイ デアをつなげたりすることがで きる。 ・簡単な描写を羅列すること ができる。 ・語彙や文構造及び文法の 使い方に誤りが多い。	・複雑な内容を説明するとき に誤りが生じるが、幅広い語 彙・表現や文法を使用し、ア イデアを伝えることができる。 ・間接なアイデアを順序立て てつなげることができる。 ・語彙や文構造及び文法の 使い方が概ね適切である。	・豊富で幅広い語彙・表現や 文法を、柔軟に使用すること ができる。 ・アイデア間の関係性を整理 して伝えることができる。 ・語彙や文構造及び文法の 使い方が適切であり、誤解を 生むような文法の誤りや、コミ ュケーションを阻害するよう な語彙の誤りもない。

■音声 (Part A, Part C, Part D)

	x(0)	△(1)	O(2)	O(3)
・求められている解答内容から明ら かに外れている。 ・英語ではない、あるいは、英語として 通じない。 ・力を測るための十分な量の発話が ない。	・簡単な単語や語句の強勢は適切 であるが、全体を通して発音の誤りが 生じ、抑揚がほとんどない。 ・不自然なところで区切ったり、重 複や重い回しを考えた重なり直したり するなどの間 (ま) が多い、もしくは 不自然に長かったりすることがあり、話 すにつれていくことが難しい。	・発音は概ね正確であるが、強勢、リ ズムや抑揚が、聞き手の理解の支障 となることがある。 ・不自然なところで区切ったり、重 複や重い回しを考えた重なり直したり するなどの間 (ま) が多い、もしくは 不自然に長かったりすることがあり、話 すにつれていくことが難しい。	・発音は概ね正確であるが、強勢、リ ズムや抑揚が、聞き手の理解の支障 となることがある。 ・不自然なところで区切ったり、重 複や重い回しを考えた重なり直したり するなどの間 (ま) が多い、もしくは 不自然に長かったりすることがあり、話 すにつれていくことが難しい。	・発音は概ね正確で、強勢、リズムや 抑揚が、聞き手の理解の支障とな ることはない。 ・重複や重い回しを考えた重なり直 したりするために、間 (ま) を取るこ とがあるが、発話中の間 (ま) は、概 ね自然なところにある、不自然に長く ない。

※このテスト問題及びそれに付随する採点基準・解答例の著作権は、試験実施団体に帰属します。

(2) 結果

本試験 (11 月 26 日実施)

Part A Reading Aloud ～音読～

■出題の趣旨と測定している力、採点観点

- 出題の趣旨と測定している力：このパートは、英文を読み上げる形式の出題で、聞いている人に必要な情報が伝わるように、英語音声の特徴を踏まえて音読する能力を測定する問題である。

- 学習指導要領との関連性

2 内容 (1) 英語の特徴やきまりに関する事項

- 採点観点：「音声」の観点で4段階評価

■問題

No.1

あなたは留学先の学校で、昼休みの時間に放送を使って、新しくできたクラブについて案内することになりました。次の英文を声に出して読んでください。録音開始の音が鳴ってから解答を始めてください。
(準備時間30秒/解答時間30秒)

▶ No. 1

Have you heard about the new math club? It will start next week. Club members will meet every Tuesday afternoon at four o'clock in the computer room. They'll study together and play math games. If you want to join, please talk to Mr. Harris.

No.2

留学中のあなたは、ホームステイ先の子供に、物語を読み聞かせることになりました。次の英文を声に出して読んでください。録音開始の音が鳴ってから解答を始めてください。
(準備時間30秒/解答時間30秒)

▶ No. 2

A woman lived in a large house. She liked singing and writing songs. One night, her friends came to her house for dinner. After dinner, she sang her new song for them. What did her friends think? They loved it, and they wanted to learn the song, too.

■結果

No.1

項目：音声

	人数（割合）
◎(3)	15,341 人 (21.9%)
○(2)	46,448 人 (66.3%)
△(1)	5,155 人 (7.4%)
×(0)	3,110 人 (4.4%)

受験者数：70,054 人

No.2

項目：音声

	人数（割合）
◎(3)	11,395 人 (16.3%)
○(2)	48,028 人 (68.6%)
△(1)	7,464 人 (10.7%)
×(0)	3,167 人 (4.5%)

受験者数：70,054 人

※小数第三位を四捨五入しているため、上記の表では「割合」の合計が100%になっていない場合がある。

■結果分析

- 「◎」の生徒は、英文全体を通して語彙、強勢、リズムやイントネーションが適切であった。
- 「○」の生徒は、英文全体の内容は聞き手に伝わるものの、“heard”、“math”、“Tuesday”、“lived”、“large”、“dinner”などの語彙に関して発音ができなかったり、英語らしいリズムやイントネーションに欠けたりしていた。
- 「△」の生徒は、全体を通して発音の誤りが多く、適切なリズムやイントネーションで音読できていなかった。
- 「×」の生徒は、解答時間内に英文の音読が終わらない、ほとんどの語彙を発音できていない、もしくは無回答であった。

Part B Listening and Responding ～質問を聞いて応答する～

■出題の趣旨と測定している力、採点観点

- 出題の趣旨と測定している力：このパートは、図示された情報を読み取り、それに関する質問を聞き取った上で、適切に応答する力や、図示された情報をもとに、自分から質問する、考えや意図を伝える、相手の行動を促すなどのやり取りする力を測定する問題である。
- 学習指導要領との関連性

Ⅰ 目 標 (3) 話すこと [やり取り]

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。

イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。

- 採点観点：「コミュニケーションの達成度」の観点で2段階評価。

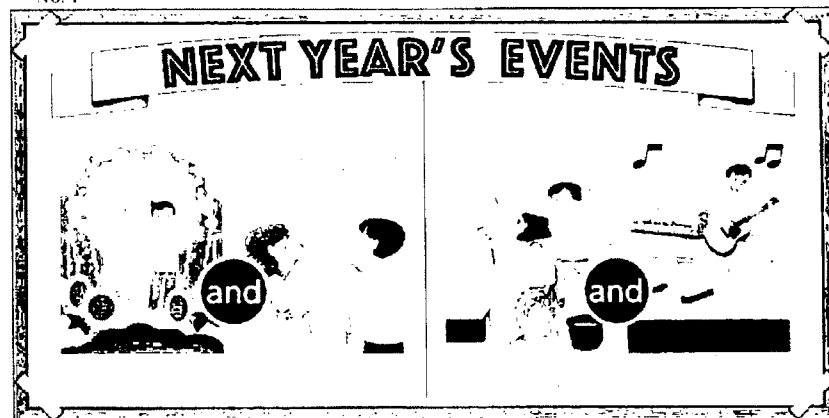
■問題

No.1

質問：What are all of the events in September?

留学中のあなたは、友達と学校の掲示板に貼ってある、来年開催される地域のイベントのポスターを見ています。友達からの質問に対して、与えられたポスターの情報をもとに、英語で答えてください。録音開始の音が鳴ってから解答を始めてください。
(準備時間10秒 解答時間10秒)

No. 1

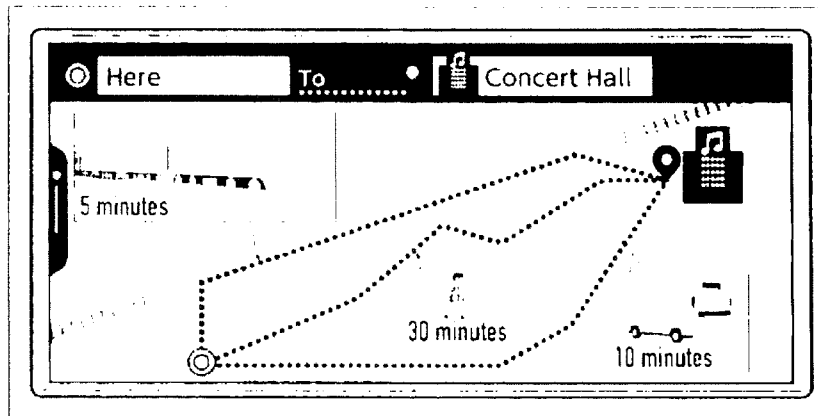


No.2

質問：What is the fastest way to get to the concert hall?

留学中のあなたは、友達とコンサートに行くために、あなたのいる場所から会場までの行き方を、あなたの携帯電話で調べています。友達からの質問に対して、与えられた情報をもとに、英語で答えてください。録音開始の音が鳴ってから解答を始めてください。
(準備時間10秒 解答時間10秒)

No. 2



No.3

質問：Which activity do you want to do?

留学中のあなたは、2日間で行われるサマーキャンプに参加していて、初日の活動の案内を見えています。キャンプ担当者からの質問に対して、与えられた活動の情報をもとに、あなた自身の回答を英語で述べてください。録音開始の音が鳴ってから解答を始めてください。
(準備時間10秒 解答時間10秒)

No. 3



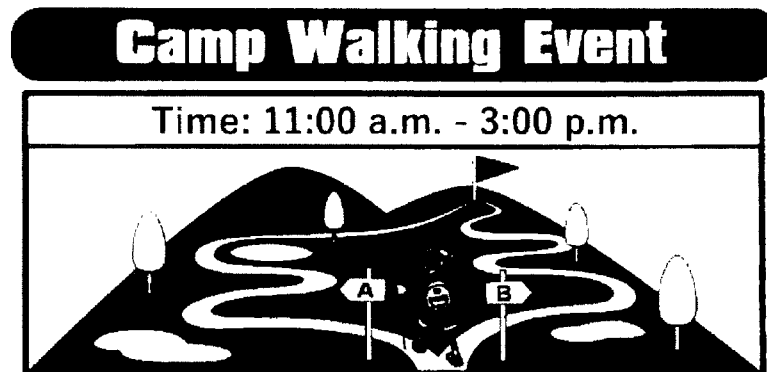
No.4

キャンプ担当者：We're going to have a walking event.

次に、あなたはキャンプ2日目に行われるイベントについての案内を受け取りました。あなたはその内容について、案内に書かれていないことで、さらに知りたいことがあります。知りたいことをキャンプ担当者に英語で尋ねてください。録音開始の音が鳴ってから解答を始めてください。

(準備時間10秒 解答時間10秒)

No.4



■結果

No.1

項目：コミュニケーションの達成度

	人数 (割合)
○(1)	58,351 人 (83.3%)
×(0)	11,703 人 (16.7%)

受験者数：70,054 人

No.2

項目：コミュニケーションの達成度

	人数 (割合)
○(1)	51,240 人 (73.1%)
×(0)	18,814 人 (26.9%)

受験者数：70,054 人

No.3

項目：コミュニケーションの達成度

	人数（割合）
○(1)	66,431 人（94.8%）
×(0)	3,623 人（5.2%）

受験者数：70,054 人

No.4

項目：コミュニケーションの達成度

	人数（割合）
○(1)	41,094 人（58.7%）
×(0)	28,960 人（41.3%）

受験者数：70,054 人

※小数第三位を四捨五入しているため、上記の表では「割合」の合計が 100% になっていない場合がある。

■結果分析

- 「○」の生徒は、文法などに誤りはあるものの聞き手が問題なく理解できる応答ができていた。
- 「×」の生徒は、全く応答できていないか、表現の誤り、あいまいさや発話量の不足などにより、聞き手に混乱をもたらす応答であった。

設問ごとの解答例**No.1**

	解答例	コミュニケーション達成	説明
1	(They are) a fishing event and a music event. / Fishing and music.	○(1)	(9月のイベントが) 釣りと言楽であると応答できている。
2	It's fishing and a concert.	○(1)	
3	We can join some music event.	×(0)	釣りと音楽の両方を応答していない。
4	In September, we will play outside and play music.	×(0)	釣りと音楽の両方を応答していない(「屋外で遊ぶ」だけでは、「釣り」であることが十分に伝わらない)。

No.2

	解答例	コミュニケーション達成	説明
1	The fastest way (to get there) is by train. / By train.	○(1)	(最も早い行き方が) 電車であると応答できている。
2	On train is most fast.	○(1)	
3	It's 5 minutes.	×(0)	質問に対する応答になっていない。
4	By bus is the fastest.	×(0)	質問への応答の内容が誤っている。

No.3

	解答例	コミュニケーション達成	説明
1	I want to [cook / dance / ride a bike [bicycle]].	○(1)	自分のやりたい活動を応答できている。
2	I want to join a cooking.	○(1)	
3	I'd like to dance around forest.	○(1)	
4	Hiking.	×(0)	自分のやりたい活動を案内の中から選べていない。
5	I want to do something on forest.	×(0)	自分のやりたい活動を案内の中から選べていない(「森の中で何かする」だけでは活動が十分に伝わらない)。

No.4

	解答例	コミュニケーション達成	説明
1	Which way is shorter, A or B?	○(1)	案内に書かれていないことで、さらに知りたいことを尋ねることができる。
2	What should I take (on the walk)?	○(1)	
3	How long does I take for B course?	○(1)	
4	Are there any shop on the way? A or B.	○(1)	
5	What time does it start?	×(0)	既に与えられた情報について尋ねている。
6	How long is the event?	×(0)	
7	I want to join the event.	×(0)	知りたいことを尋ねられていない。

Part C Telling a Story ～ストーリーを英語で話す～

■出題の趣旨と測定している力、採点観点

○ 出題の趣旨と測定している力：このパートは、日常的な出来事について、話の流れを踏まえて相手に伝わるように状況を説明する力を測定する問題である。

○ 学習指導要領との関連性

1 目 標 (3) 話すこと「発表」

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。

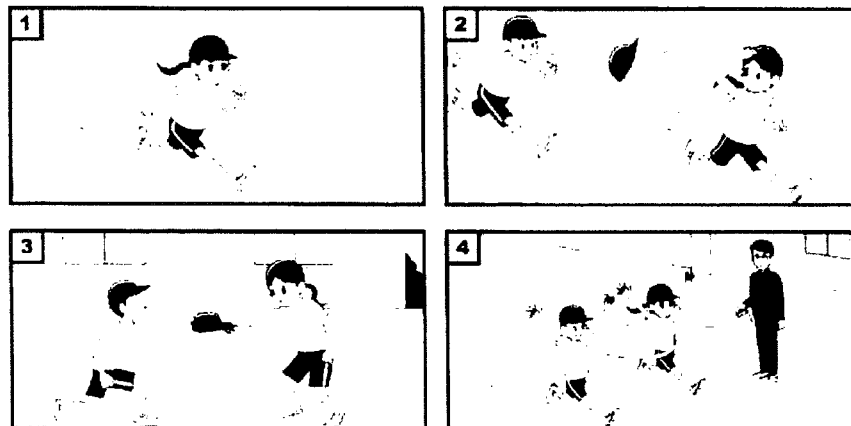
イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

○ 採点観点：「コミュニケーションの達成度（1コマめ～4コマめのそれぞれのイラストの内容「事実」を伝えることができているか）」の観点で、2段階評価。加えて、「音声」の観点で4段階評価、「言語使用」の観点で5段階評価

■問題

あなたは、昨日あなたに起こった出来事を留学生の友達に話すことになりました。1のイラストに描かれた人物になったつもりで、相手に伝わるように英語で話してください。

(準備時間30秒 解答時間40秒)



■結果

項目：コミュニケーションの達成度

	人数（割合）			
	1 コマ	2 コマ	3 コマ	4 コマ
○(1)	64,527 人 (92.1%)	38,855 人 (55.5%)	21,023 人 (30.0%)	45,154 人 (64.5%)
×(0)	5,527 人 (7.9%)	31,199 人 (44.5%)	49,031 人 (70.0%)	24,900 人 (35.5%)

受験者数：70,054 人

項目：音声

	人数（割合）
◎(3)	1,763 人 (2.5%)
○(2)	57,262 人 (81.7%)
△(1)	8,777 人 (12.5%)
×(0)	2,252 人 (3.2%)

受験者数：70,054 人

項目：言語使用

	人数（割合）
◎◎(4)	33 人 (0.0%)
◎(3)	805 人 (1.1%)
○(2)	33,524 人 (47.9%)
△(1)	33,330 人 (47.6%)
×(0)	2,362 人 (3.4%)

受験者数：70,054 人

※小数第三位を四捨五入しているため、上記の表では「割合」の合計が100%になっていない場合がある。

■結果分析

- 音声の採点観点において、割合が高かった「○」の生徒は、不自然なところに長めの間（ま）があったり、全体的に平坦で、英語らしいリズムやイントネーションに欠けるものであったりしたが、理解に支障が生じるほどではなかった。

設問ごとの解答例

	解答例	コミュニケーション達成				言語使用	
		1 次	2 次	3 次	4 次	説明	採点
		私が走っていたことが分かる。	私が帽子を落としたことが分かる。	男の子が帽子を拾い、渡してくれたことが分かる。	男の子と一緒にゴールしたことが分かる。		
1	1 次 : I running. 2 次 : But, suddenly, hat is. 3 次 : My friend's hat. 4 次 : We together goal.	○ (1)	× (0)	× (0)	○ (1)	・ 簡単な事柄なら言い表すことができない。 ・ 使用している語彙や表現の幅が限られている。 ・ 文構造及び文法の使い方に誤りが非常に多い。	△ (1)
2	1 次 : Yesterday, I was running. 2 次 : So, my cap was out of my head. 3 次 : But, my friend will throw this cap. 4 次 : So, we goal together.	○ (1)	× (0)	× (0)	○ (1)	・ 簡単な接続詞を使って、簡単な描写を羅列することができる。 ・ 使用している語彙・表現や文法の幅が限られている。	○ (2)
3	1 次 : I was running. 2 次 : But, I lost my cap and cap was flying. 3 次 : But, the boy give- gave my cap to me. 4 次 : So, boy and I are **	○ (1)	○ (1)	○ (1)	× (0)		○ (2)

4	1 J7 : Yesterday, I was on the race of running. 2 J7 : But, while running through the course, my-my- my hat was came off from my head. 3 J7 : But, one guy just pick it up to me. It was very kind of him. 4 J7 : And, we reach the goal together. It was really good experience and I really appreciate to him.	○ (1)	○ (1)	○ (1)	○ (1)	・幅広い語彙・文法をアイディアとして伝えることができる。(出来事の説明のための材料が備わっている)。 ・簡単なアイディアを順序立てることができる。 ・語彙や文法の使用が適切である。	◎ (3)
5	1 J7 : I had a sports festival yesterday. I was running in a short course, 2 J7 : but my cap was blown away. And, I realized that and I was so worried about that. 3 J7 : But, very luckily, a second-place boy gave the cap to me. 4 J7 : And we could reach the goal together. It was very nice.	○ (1)	○ (1)	○ (1)	○ (1)	・アイディアを伝えることができる。(出来事の説明のための材料が備わっている)。 ・簡単なアイディアを順序立てることができる。 ・語彙や文法の使用が適切である。	◎ (3)
6	1 J7 : One day, there was a sports festival held at my school, and I participated in one of the races. 2 J7 : My hat came off while I was running fast in the race, and it fell toward the ground. 3 J7 : But I was lucky because the boy who was running behind me could catch my hat. He kindly gave it back to me, which made me very happy. 4 J7 : We then decided to run the	○ (1)	○ (1)	○ (1)	○ (1)	・豊富で幅広い語彙・表現文法を、柔軟に使用することができる。 ・1 J7~4 J7の内容の関係性を整理して伝えることができる。 ・語彙や文法の使用が適切であり、より生々しい文法ミスや誤りがない。	◎◎ (4)

	rest of the race together, and later we could both cross the finish line at the same time. So, in the end, we were both winners!						
--	--	--	--	--	--	--	--

Part D Expressing Your Opinion ～自分の意見を述べる～

■出題の趣旨と測定している力、採点観点

- 出題の趣旨と測定している力：このパートは、聞いたことについて、自分の意見とその意見をサポートする理由を述べる力を測定する問題である。
- 学習指導要領との関連性

1 目 標 (3) 話すこと「発表」

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。

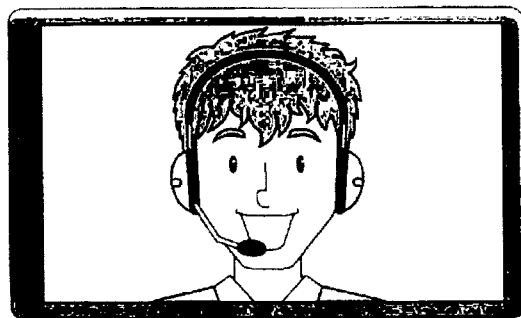
イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

- 採点観点：「コミュニケーションの達成度（意見と理由を伝えることができているか）」の観点で、2段階評価。加えて、「音声」の観点で4段階評価、「言語使用」の観点で5段階評価

■問題

海外姉妹校の生徒であるマイクから、ビデオレターで質問が届きました。そこで、あなたは、英語で回答を録音して送ることにしました。ビデオレターの音声を聞き、あなたの意見を述べ、そう考える理由を詳しく話してください。日本の地名や人名などを使う場合には、それを知らない人に分かるように説明してください。

（準備時間1分 解答時間40秒）



【英語音声のみ・画面表示なし】

Hello. At my school, the students are going to choose a place for this year's one-day school trip. We can go to a mountain or an art museum. In your opinion, which is better for students, a trip to a mountain or a trip to an art museum? Tell me why you think so, too. I'm waiting to hear from you.

■結果

項目：コミュニケーションの達成度

	人数（割合）	
	意見	理由
○(1)	61,857 人 (88.3%)	59,058 人 (84.3%)
×(0)	8,197 人 (11.7%)	10,996 人 (15.7%)

受験者数：70,054 人

項目：音声

	人数（割合）
◎(3)	4,952 人 (7.1%)
○(2)	51,938 人 (74.1%)
△(1)	7,602 人 (10.9%)
×(0)	5,562 人 (7.9%)

受験者数：70,054 人

項目：言語使用

	人数（割合）
◎◎(4)	142 人 (0.2%)
◎(3)	2,190 人 (3.1%)
○(2)	35,251 人 (50.3%)
△(1)	26,848 人 (38.3%)
×(0)	5,623 人 (8.0%)

受験者数：70,054 人

※小数第三位を四捨五入しているため、上記の表では「割合」の合計が 100% になっていない場合がある。

■結果分析

- 音声の採点観点において「○」の生徒の割合が最も高く、不自然なところに間(ま)や沈黙があったり、強勢、イントネーションやリズムが不自然であったりした。また、理解に支障がある単語の発音もいくつか散見された。

設問ごとの解答例

	解答例	コミュニケーションの達成度		言語使用	
		意見が述べられている。	理由が述べられている。	説明	採点
1	意見 : I go Japan school. 理由 : School- school trip is museum and-	× (0)	× (0)	・ 使用している語彙や表現の幅が限られている。 ・ 語彙や文構造及び文法の使い方に誤りが非常に多い。	△ (1)
2	意見 : I recommend rest in Nagano because nature, art and mountain. 理由 : Nagano art museum is art director **. He is famous.	× (0)	○ (1)		△ (1)
3	意見 : I think trip- I think trip to museum. 理由 : ー	○ (1)	× (0)		△ (1)
4	意見 : In my opinion, a trip to an art museum is better, 理由 : because in the trip, students can talk about pictures. It make the student study about art and it will be interesting.	○ (1)	○ (1)	・ 使用している語彙・表現や文法の幅が限られているが、簡単な接続詞を使って、アイデアをつなげることができる。 ・ 簡単な描写を羅列することができる。	○ (2)
5	意見 : I think a trip to mountain is better to student, 理由 : because in the nature, students can talk to each other about surroundings, and they can be friends with each other.	○ (1)	○ (1)		○ (2)

6	意見 : In my opinion, I like to trip to museum, 理由 : because we can learn the traditional art, modern art. I prefer to see the many kinds of art.	○ (1)	○ (1)		○ (2)
7	意見 : I recommend a trip to the art museum. 理由 : In fact the hiking on the mountain can makes a great friendship with your friend, but there are a lot of dangers such as insect injury or losing the way on the mountain, but art museum has no danger and you can learn a lot of things from the art, so I think the trip to the art museum is better.	○ (1)	○ (1)	・ 複雑な内容を説明するときに誤りが生じるが、幅広い語彙・表現や文法を使用し、アイデアを伝えることができる。 ・ 簡単なアイデアを順序立ててつなげることができる。 ・ 語彙や文構造及び文法の使い方がおおむね適切である。	◎ (3)
8	意見 : I think a trip is a trip to a mountain is better, 理由 : because I think it's more enjoyable and it encourages you to, like, interact better. You might help each other when hiking, but you have to be, like, silent in an art museum, but in a mountain you don't have to care about that, so a trip to a mountain is better.	○ (1)	○ (1)	・ 幅広い語彙・表現や文法を使用し、アイデアを伝えることができる。 ・ 簡単なアイデアを順序立ててつなげることができる。 ・ 語彙や文構造及び文法の使い方がおおむね適切である。	◎ (3)
9	意見 : I think going to art museum is better for the school trip. 理由 : School trip is kind of education, so it should contain some educational functions. In going to art museum will give you a chance to learn about history, culture, and so on. Moreover, it's a very enjoyable thing to looking painting, watching some pictures or statues or so on. So, I prefer to go to art museum.	○ (1)	○ (1)	・ 豊富で幅広い語彙・表現や文法を、柔軟に使用することができる。 ・ アイデア間の関係性を整理して伝えることができる。 ・ 語彙や文構造及び文法の使い方が適切であり、誤解を生むような文法の誤りや、コミュニケーションを阻害するよ	◎ ◎ (4)

				うな語彙の誤り もない。	
--	--	--	--	-----------------	--

予備日（12月17日実施）

Part A Reading Aloud ～音読～

■出題の趣旨と測定している力、採点観点

（本試験と同じ）

■問題

No.1

留学中のあなたは、ホームステイ先の子供に、物語を読み聞かせることになりました。次の英文を声に出して読んでください。録音開始の音が鳴ってから解答を始めてください。

（準備時間30秒／解答時間30秒）

▶ No. 1

A boy lived in a house near a forest. In his free time, he liked to walk in his family's garden. One day, he saw a rabbit in the garden. What was it doing? It was sleeping in the flowers because it was warm there.

No.2

あなたは留学先の学校で、昼休みの時間に放送を使って、来週の校外活動について案内することになりました。次の英文を声に出して読んでください。録音開始の音が鳴ってから解答を始めてください。

（準備時間30秒／解答時間30秒）

▶ No. 2

We're going to go to the city library on Saturday. Are you excited? Let's meet in front of the school at nine o'clock. You can find many kinds of English books at the library. After visiting the library, we're going to have lunch in a park. You're going to love this trip!

■結果

No.1

項目：音声

	人数（割合）
◎(3)	108 人（9.4％）
○(2)	846 人（73.8％）
△(1)	115 人（10.0％）
×(0)	78 人（6.8％）

受験者数：1,147 人

No.2

項目：音声

	人数（割合）
◎(3)	75 人（6.5％）
○(2)	904 人（78.8％）
△(1)	85 人（7.4％）
×(0)	83 人（7.2％）

受験者数：1,147 人

※小数第三位を四捨五入しているため、上記の表では「割合」の合計が 100％になっていない場合がある。

■結果分析

- 「◎」の生徒は、英文全体を通して語彙、強勢、リズムやイントネーションが適切であった。
- 「○」の生徒は、英文全体の内容は聞き手に伝わるものの、“lived”、“forest”、“warm”、“library”、“Saturday”、“visiting”などの語彙に関して発音ができなかったり、英語らしいリズムやイントネーションに欠けたりしていた。
- 「△」の生徒は、全体を通して発音の誤りが多く、適切なリズムやイントネーションで音読ができていなかった。
- 「×」の生徒は、解答時間内に英文の音読が終わらない、ほとんどの語彙を発音できていない、もしくは無回答であった。

Part B Listening and Responding ～質問を聞いて応答する～

■出題の趣旨と測定している力、採点観点

(本試験と同じ)

■問題

No.1

質問：What do you need to take to the lesson?

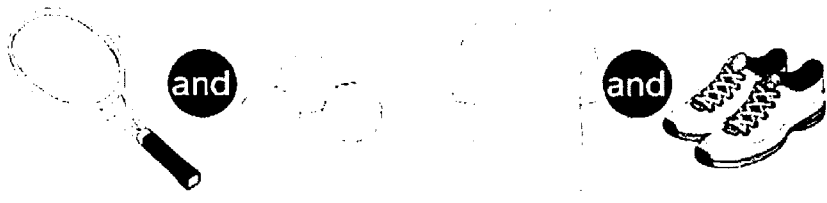
留学中のあなたは、友達とテニススクールの体験レッスンの案内を見えています。友達からの質問に対して、与えられた案内の草稿をもとに、英語で答えてください。録音開始の音が鳴ってから解答を始めてください。

(準備時間10秒 解答時間10秒)

No. 1

GREEN TENNIS SCHOOL

Open every day from 10:00 a.m.



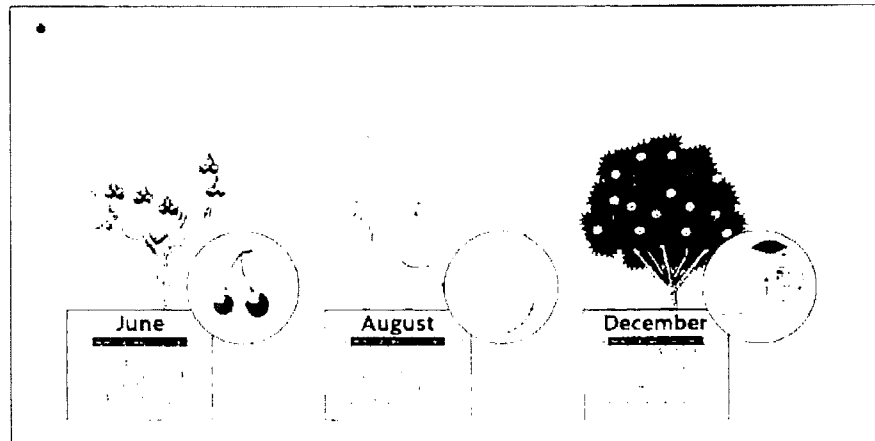
No.2

質問：What is the best month to get cherries?

留学中のあなたは、友達と季節ごとの果物について出会うためにウェブサイトを見ている。友達からの依頼に対して、与えられたウェブサイトの情報をもとに、英語で答えてください。解答開始の音がなってから解答を始めてください。

(準備時間10秒・解答時間10秒)

No. 2



No.3

質問：Which job do you want to learn about?

留学中のあなたは、学校で開催される職業紹介イベントの案内を見ている。先生からの依頼に対して、与えられた案内の情報をもとに、あなた自身の回答を英語で述べてください。解答開始の音がなってから解答を始めてください。

(準備時間10秒・解答時間10秒)

No. 3



No.4

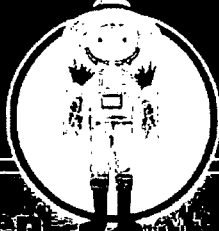
先生：We're going to have a special guest.

次に、職業紹介イベントで行われるスピーチに関する案内を受け取りました。あなたはその内容について、案内に書かれていないことで、さらに知りたいことがあります。知りたいことを先生に英語で尋ねてください。録音開始の音が鳴ってから解答を始めてください。

(準備時間10秒 解答時間10秒)

No. 4

**Speech by
Mary Walker (Farmer)**



Place: School Garden

Time: 3:00 pm - 4:00 pm

Question and answer time

■結果

No.1

項目：コミュニケーションの達成度

	人数（割合）
○(1)	520 人（45.3%）
×(0)	627 人（54.7%）

受験者数：1,147 人

No.2

項目：コミュニケーションの達成度

	人数（割合）
○(1)	1,012 人（88.2%）
×(0)	135 人（11.8%）

受験者数：1,147 人

No.3

項目：コミュニケーションの達成度

	人数（割合）
○(1)	1,012 人（88.2%）
×(0)	135 人（11.8%）

受験者数：1,147 人

No.4

項目：コミュニケーションの達成度

	人数（割合）
○(1)	297 人（25.9%）
×(0)	850 人（74.1%）

受験者数：1,147 人

※小数第三位を四捨五入しているため、上記の表では「割合」の合計が 100%になっていない場合がある。

■結果分析

- 「○」の生徒は、文法などに誤りはあるものの聞き手が問題なく理解できる応答ができていた。
- 「×」の生徒は、全く応答できていないか、文法などに誤りがあったり、あいまいさや発話量の不足などにより、聞き手に混乱をもたらす応答であった。

設問ごとの解答例**No.1**

	解答例	コミュニケーション達成	説明
1	You need to take a shirt and shoes. / A shirt and shoes.	○(1)	(レッスンに持っていくものが) シャツと靴であると応答できている。
2	T-shirt and sneakers.	○(1)	
3	Jersey and running shoes.	○(1)	
4	Racket and balls.	×(0)	質問への応答の内容が誤っている。

No.2

	解答例	コミュニケーション達成	説明
1	June is the best month (to get cherries). / June.	○(1)	(さくらんぼを収穫するのに適した月は) 6 月であると応答できている。
2	Cherries are in June.	○(1)	
3	Spring.	×(0)	質問への応答の内容が誤っている。
4	July.	×(0)	

No.3

	解答例	コミュニケーション達成	説明
1	I want to learn about [doctors / singers / soccer players].	○(1)	自分の学びたい仕事を応答できている。
2	Doctors.	○(1)	
3	Sports players.	○(1)	
4	I want to learn about jobs.	×(0)	自分の学びたい仕事を案内の中から選べていない。
5	I want to learn cooking.	×(0)	

No.4

	解答例	コミュニケーション達成	説明
1	What will Mary Walker talk about?	○(1)	案内に書かれていないことで、さらに知りたいことを尋ねることができる。
2	How long is the question and answer time?	○(1)	
3	What kind of farming does she do?	○(1)	
4	I want to know if I need to prepare questions in advance.	○(1)	
5	Who is Mary Walker?	×(0)	既に与えられた情報について尋ねている。
6	Is there a question and answer time?	×(0)	
7	I want to talk to Mary Walker.	×(0)	知りたいことを尋ねられていない。

Part C Telling a Story ～ストーリーを英語で話す～

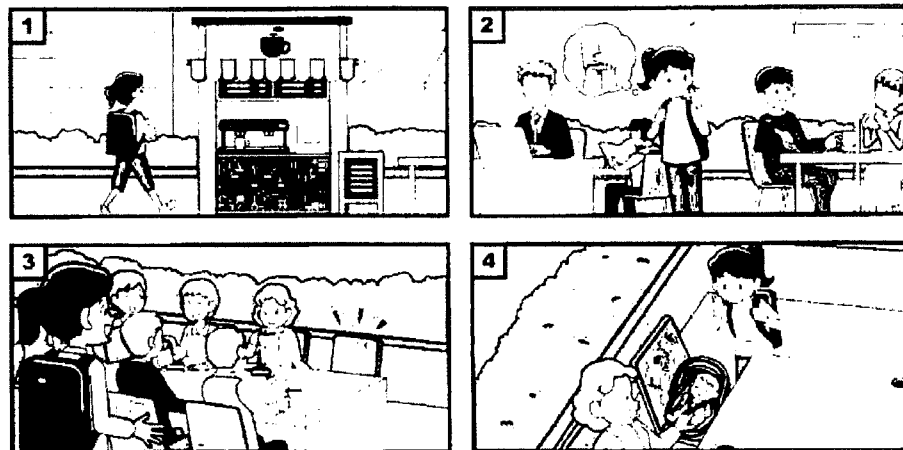
■出題の趣旨と測定している力、採点観点

(本試験と同じ)

■問題

あなたは、昨日あなたに起こった出来事を留学生の友達に話すことになりました。1のイラストに描かれた人物になったつもりで、相手に伝わるように英語で話してください。

(準備時間30秒 解答時間40秒)



■結果

項目：コミュニケーションの達成度

	人数（割合）			
	1 コマ	2 コマ	3 コマ	4 コマ
○(1)	956 人 (83.3%)	467 人 (40.7%)	683 人 (59.5%)	506 人 (44.1%)
×(0)	191 人 (16.7%)	680 人 (59.3%)	464 人 (40.5%)	641 人 (55.9%)

受験者数：1,147 人

項目：音声

	人数（割合）
◎(3)	45 人 (3.9%)
○(2)	913 人 (79.6%)
△(1)	115 人 (10.0%)
×(0)	74 人 (6.5%)

受験者数：1,147 人

項目：言語使用

	人数（割合）
◎◎(4)	0 人 (0.0%)
◎(3)	25 人 (2.2%)
○(2)	468 人 (40.8%)
△(1)	573 人 (50.0%)
×(0)	81 人 (7.1%)

受験者数：1,147 人

※小数第三位を四捨五入しているため、上記の表では「割合」の合計が 100% になっていない場合がある。

■結果分析

- 音声の採点観点において、割合が高かった「○」の生徒は、不自然なところに長めの間（ま）があったり、全体的に平坦で、英語らしいリズムやイントネーションに欠けるものであったりしたが、理解に支障が生じるほどではなかった。

設問ごとの解答例

	解答例	コミュニケーション達成				言語使用	
		1 J7	2 J7	3 J7	4 J7	説明	採点
		私がカフェに行ったことが分かる。	座席を探したことが分かる。	座席を見つけた(と思った)ことが分かる。	見つけた座席には赤ちゃんがいたことが分かる。		
1	1 J7 : I went to coffee shop yesterday. 2 J7 : I looking for seat. 3 J7 : - 4 J7 : -	○ (1)	○ (1)	× (0)	× (0)	・ 簡単な事柄なら言い表すことができる。 ・ 使用している語彙や表現の幅が限られている。 ・ 文構造及び文法の使い方に誤りが非常に多い。	△(1)
2	1 J7 : Yesterday, I went to coffee shop. 2 J7 : But, I can't looking for chair. 3 J7 : After that, I get chair. 4 J7 : But there is a baby on the chair.	○ (1)	× (0)	○ (1)	○ (1)	・ 簡単な接続詞を使って、簡単な描写を羅列することができる。 ・ 使用している語彙・表現や文法の幅が限られている。	○ (2)
3	1 J7 : I'm thirsty. 2 J7 : But, there is no place to sit. 3 J7 : - 4 J7 : Oh no! This seat is	× (0)	○ (1)	× (0)	○ (1)		○ (2)

	taken by a baby!						
4	1 J7 : I went to a coffee shop yesterday and it was crowded. 2 J7 : So, I was looking for a place to sit. 3 J7 : And, there was an open seat beside an old lady. 4 J7 : So, I went there, but there was a baby sleeping in the seat.	○ (1)	○ (1)	○ (1)	○ (1)	・ 幅広い語彙・表現や文法を使用し、アイデアを伝えることができる（出来事を具体的に説明するための言語材料が備わっている）。 ・ 簡単なアイデアを順序立ててつなげることができる。 ・ 語彙や文構造及び文法の使い方がおおむね適切である。	◎ (3)
5	1 J7 : I went to the coffee shop, when I face to the problem. 2 J7 : The problem is that I can't find any seat for me. 3 J7 : Finally, I can- I could find a seat. I see only one seat. 4 J7 : However, I found that the baby was sleeping on the chair.	○ (1)	○ (1)	○ (1)	○ (1)	・ アイデアを伝えることができる（出来事を具体的に説明するための言語材料が備わっている）。 ・ 簡単なアイデアを順序立ててつなげることができる。 ・ 語彙や文構造及び文法の使い方がおおむね適切である。	◎ (3)
6	1 J7 : Yesterday, I went to a cafe to drink some coffee. 2 J7 : I wish I could find a chair available. But unfortunately, all were already full. 3 J7 : I thought just one chair next to an old	○ (1)	○ (1)	○ (1)	○ (1)	・ 豊富で幅広い語彙・表現や文法を、柔軟に使用することができる。 ・ 1 J7～4 J7の内容の関係を整理して伝えることができる。 ・ 語彙や文構造及び文法の使い方が適切であり、誤解を生むよう	◎◎ (4)

	lady was vacant. 4 J7 : I was trying to put my bag on it to keep it. But surprisingly, a little baby is sleeping on the chair.					な文法の誤り や、コミュニケ ーションを阻害 するような語彙 の誤りもない。	
--	---	--	--	--	--	--	--

Part D Expressing Your Opinion ～自分の意見を述べる～

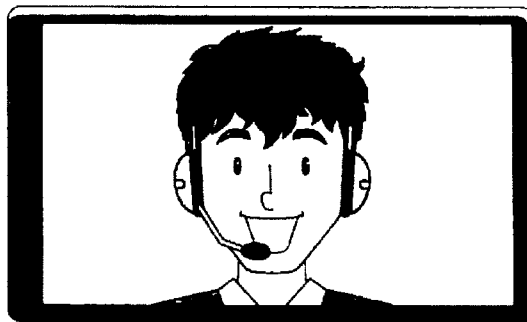
■出題の趣旨と測定している力、採点観点

(本試験と同じ)

■問題

海外研修校の生徒であるマイクから、ビデオレターで質問が届きました。そこで、あなたは、英語で回答を録音して送ることになりました。ビデオレターの音声を聞き、あなたの意見を述べ、その考える理由を詳しく話してください。日本の地名や人名などを使う場合には、それを知らない人に分かるように説明してください。

(準備時間1分 解答時間40秒)



【英語音声のみ・画面表示なし】

Hello. I read a book in class yesterday, and I enjoyed the story very much. I told John, one of my friends, about that, and he said, "I enjoyed watching a movie of that story." Now, I know that there are two ways to enjoy a story. In your opinion, which is better for students, reading a book of a story or watching a movie of a story? Tell me why you think so, too. I'm waiting to hear from you.

■結果

項目：コミュニケーションの達成度

	人数（割合）	
	意見	理由
○(1)	814 人 (71.0%)	742 人 (64.7%)
×(0)	333 人 (29.0%)	405 人 (35.3%)

受験者数：1,147 人

項目：音声

	人数（割合）
◎(3)	47 人 (4.1%)
○(2)	769 人 (67.0%)
△(1)	107 人 (9.3%)
×(0)	224 人 (19.5%)

受験者数：1,147 人

項目：言語使用

	人数（割合）
◎◎(4)	3 人 (0.3%)
◎(3)	22 人 (1.9%)
○(2)	386 人 (33.7%)
△(1)	511 人 (44.6%)
×(0)	225 人 (19.6%)

受験者数：1,147 人

※小数第三位を四捨五入しているため、上記の表では「割合」の合計が 100% になっていない場合がある。

■結果分析

- 音声の採点観点において「○」の生徒の割合が最も高く、不自然なところに間(ま)や沈黙があったり、強勢、イントネーションやリズムが不自然であったりした。また、理解に支障がある単語の発音もいくつか散見された。

設問ごとの解答例

	解答例	コミュニケーションの達成度		言語使用	
		意見が述べられている。	理由が述べられている。	説明	採点
1	意見 : I thinks the story. 理由 : The story makes us happy.	× (0)	× (0)	・ 使用している語彙や表現の幅が限られている。 ・ 語彙や文構造及び文法の使い方に誤りが非常に多い。	△ (1)
2	意見 : Students read books in class. 理由 : —	× (0)	× (0)		△ (1)
3	意見 : Hello Mike. I think the better which- watching the movie. 理由 : —	○ (1)	× (0)		△ (1)
4	意見 : My opinion is watching movie is good, 理由 : because, I- I feel sleepy for reading book.	○ (1)	○ (1)	・ 使用している語彙・表現や文法の幅が限られているが、簡単な接続詞を使って、アイデアをつなげることができる。 ・ 簡単な描写を羅列することができる。	○ (2)
5	意見 : I think reading- reading a book is better for students, 理由 : because, reading books- reading a books can grow the speaking- grow speaking and reading abilities. We need this abilities in school.	○ (1)	○ (1)		○ (2)
6	意見 : Watching the movie for the story is best- better way to understand the story, 理由 : because reading a book a story is so take a long time. But, watching a movie is so short time. So, watching a movie for	○ (1)	○ (1)		○ (2)

	the story is best way, I think.				
7	意見 : I recommend the reading, 理由 : because, in recent years, I think young people have less time, less opportunity to read books than watching movies. So, in terms of abounding their experience. I recommend students to read books, read a story on school. I think it will be a good education, I think.	○ (1)	○ (1)	・ 複雑な内容を説明するときに誤りが生じるが、幅広い語彙・表現や文法を使用し、アイデアを伝えることができる。 ・ 簡単なアイデアを順序立ててつなげることができる。 ・ 語彙や文構造及び文法の使い方がおおむね適切である。	◎ (3)
8	意見 : I think reading a book is better for students, 理由 : because, books has less picture- pictures than movies. That means students have to imagine the situation or scenery without looking at the- without looking at it. I think this- this is good for students to- to make the- to improve the skills of imagine.	○ (1)	○ (1)	・ 幅広い語彙・表現や文法を使用し、アイデアを伝えることができる。 ・ 簡単なアイデアを順序立ててつなげることができる。 ・ 語彙や文構造及び文法の使い方がおおむね適切である。	◎ (3)
9	意見 : If I answer this kind of question from my personal perspective, I really enjoy watching the movie to know about the story. But, if I'd say the benefits to the students, I think the- the students should read a book to know about the story, 理由 : because it enhance their ability to imagine thing, and that's very important skill for the future. And then, when student is the best time to improve their imagination skills. So, I think they should read a book to know about the story.	○ (1)	○ (1)	・ 豊富で幅広い語彙・表現や文法を、柔軟に使用することができる。 ・ アイデア間の関係性を整理して伝えることができる。 ・ 語彙や文構造及び文法の使い方が適切であり、誤解を生むような文法の誤りや、コミュニケーションを阻害するような語彙の誤りもない。	◎ ◎ (4)

(3) 試験時間について

○ 試験時間は以下の表のとおりである。

Part	準備・解答時間
Part A 音読	準備時間：各 30 秒 解答時間：各 30 秒
Part B 質問を聞いて応答する	準備時間：各 10 秒 解答時間：各 10 秒
Part C ストーリーを英語で話す	準備時間：30 秒 解答時間：40 秒
Part D 自分の意見を述べる	準備時間：60 秒 解答時間：40 秒

令和 5 年度の東京都中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) については、生徒の英語力を適切に測定する上で、試験時間と準備時間、解答時間は共に適切だった。

(4) 採点と点検

■採点期間

本試験は[]から採点を開始し[]までに検証を含めて完了した。また、予備日は[]から採点を開始し[]までに検証を含めて完了した。結果が入試に活用されることから、採点に万全を期すため、[]にかけて、テスト受験者全ての解答音声データの再度の点検を行った。

■点検結果

点検の結果、解答音声は適切に採点されていた。

2. 中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の実施・運営体制

（1）実施概要

令和5年度は、以下の日程で実施した。

本試験	11月26日(日)
予備日	12月17日(日)

（2）受験会場

令和5年度は、以下の会場で実施した。

<本試験>

番号	施設種別	会場名
1	都立学校	都立大島高等学校
2	都立学校	都立新島高等学校
3	都立学校	都立神津高等学校
4	都立学校	都立大島海洋国際高等学校
5	都立学校	都立三宅高等学校
6	都立学校	都立八丈高等学校
7	都立学校	都立小笠原高等学校
8	都立学校	都立日比谷高等学校
9	都立学校	都立三田高等学校
10	都立学校	都立八潮高等学校
11	都立学校	都立小山台高等学校
12	都立学校	都立蒲田高等学校
13	都立学校	都立目黒高等学校
14	都立学校	都立青山高等学校
15	都立学校	都立広尾高等学校
16	都立学校	都立松原高等学校
17	都立学校	都立世田谷総合高等学校
18	都立学校	都立芦花高等学校
19	都立学校	都立国際高等学校

20	都立学校	都立鷺宮高等学校
21	都立学校	都立富士高等学校
22	都立学校	都立武蔵丘高等学校
23	都立学校	都立西高等学校
24	都立学校	都立石神井高等学校
25	都立学校	都立練馬高等学校
26	都立学校	都立光丘高等学校
27	都立学校	都立大泉桜高等学校
28	都立学校	都立中野工科高等学校
29	都立学校	都立北園高等学校
30	都立学校	都立板橋高等学校
31	都立学校	都立王子総合高等学校
32	都立学校	都立飛鳥高等学校
33	都立学校	都立板橋有徳高等学校
34	都立学校	都立日本橋高等学校
35	都立学校	都立白鷗高等学校
36	都立学校	都立忍岡高等学校
37	都立学校	都立上野高等学校
38	都立学校	都立竹台高等学校
39	都立学校	都立足立高等学校
40	都立学校	都立淵江高等学校
41	都立学校	都立足立西高等学校
42	都立学校	都立足立東高等学校
43	都立学校	都立青井高等学校
44	都立学校	都立足立新田高等学校
45	都立学校	都立晴海総合高等学校
46	都立学校	都立蔵前工科高等学校
47	都立学校	都立足立工科高等学校
48	都立学校	都立墨田川高等学校
49	都立学校	都立本所高等学校
50	都立学校	都立葛飾野高等学校
51	都立学校	都立南葛飾高等学校

52	都立学校	都立東高等学校
53	都立学校	都立江戸川高等学校
54	都立学校	都立小岩高等学校
55	都立学校	都立葛西南高等学校
56	都立学校	都立紅葉川高等学校
57	都立学校	都立葛飾総合高等学校
58	都立学校	都立農産高等学校
59	都立学校	都立富士森高等学校
60	都立学校	都立松が谷高等学校
61	都立学校	都立日野高等学校
62	都立学校	都立南平高等学校
63	都立学校	都立野津田高等学校
64	都立学校	都立成瀬高等学校
65	都立学校	都立小川高等学校
66	都立学校	都立山崎高等学校
67	都立学校	都立町田総合高等学校
68	都立学校	都立翔陽高等学校
69	都立学校	都立砂川高等学校
70	都立学校	都立拝島高等学校
71	都立学校	都立東大和高等学校
72	都立学校	都立武蔵村山高等学校
73	都立学校	都立東大和南高等学校
74	都立学校	都立福生高等学校
75	都立学校	都立秋留台高等学校
76	都立学校	都立羽村高等学校
77	都立学校	都立五日市高等学校
78	都立学校	都立青梅総合高等学校
79	都立学校	都立上水高等学校
80	都立学校	都立瑞穂農芸高等学校
81	都立学校	都立武蔵高等学校
82	都立学校	都立小金井北高等学校
83	都立学校	都立保谷高等学校

84	都立学校	都立久留米西高等学校
85	都立学校	都立田無高等学校
86	都立学校	都立小平高等学校
87	都立学校	都立小平西高等学校
88	都立学校	都立東村山高等学校
89	都立学校	都立国分寺高等学校
90	都立学校	都立清瀬高等学校
91	都立学校	都立小平南高等学校
92	都立学校	都立田無工科高等学校
93	都立学校	都立多摩科学技術高等学校
94	都立学校	都立神代高等学校
95	都立学校	都立調布北高等学校
96	都立学校	都立狛江高等学校
97	都立学校	都立府中高等学校
98	都立学校	都立府中東高等学校
99	都立学校	都立国立高等学校
100	都立学校	都立若葉総合高等学校
101	都立学校	都立府中工科高等学校
102	都立学校	都立桜修館中等教育学校
103	都立学校	都立南多摩中等教育学校
104	都立学校	都立三鷹中等教育学校
105	都立学校	都立雪谷高等学校
106	都立学校	都立戸山高等学校
107	都立学校	都立千歳丘高等学校
108	都立学校	都立新宿山吹高等学校
109	都立学校	都立荻窪高等学校
110	都立学校	都立杉並高等学校
111	都立学校	都立井草高等学校
112	都立学校	都立田柄高等学校
113	都立学校	都立杉並工科高等学校
114	都立学校	都立竹早高等学校
115	都立学校	都立江北高等学校

116	都立学校	都立篠崎高等学校
117	都立学校	都立大江戸高等学校
118	都立学校	都立日野台高等学校
119	都立学校	都立町田高等学校
120	都立学校	都立多摩工科高等学校
121	都立学校	都立武蔵野北高等学校
122	都立学校	都立調布南高等学校
123	都立学校	都立永山高等学校
124	都立学校	都立小石川中等教育学校
125	都立学校	都立大崎高等学校
126	都立学校	都立大森高等学校
127	都立学校	都立田園調布高等学校
128	都立学校	都立六郷工科高等学校
129	都立学校	都立桜町高等学校
130	都立学校	都立深沢高等学校
131	都立学校	都立大泉高等学校
132	都立学校	都立穂ヶ丘高等学校
133	都立学校	都立農芸高等学校
134	都立学校	都立文京高等学校
135	都立学校	都立大山高等学校
136	都立学校	都立高島高等学校
137	都立学校	都立小台橋高等学校
138	都立学校	都立深川高等学校
139	都立学校	都立城東高等学校
140	都立学校	都立江東商業高等学校
141	都立学校	都立葛西工科高等学校
142	都立学校	都立片倉高等学校
143	都立学校	都立町田工科高等学校
144	都立学校	都立立川高等学校
145	都立学校	都立つばさ総合高等学校
146	都立学校	都立六本木高等学校
147	都立学校	都立美原高等学校

148	都立学校	都立大田桜台高等学校
149	都立学校	都立駒場高等学校
150	都立学校	都立新宿高等学校
151	都立学校	都立世田谷泉高等学校
152	都立学校	都立園芸高等学校
153	都立学校	都立総合芸術高等学校
154	都立学校	都立豊多摩高等学校
155	都立学校	都立杉並総合高等学校
156	都立学校	都立練馬工科高等学校
157	都立学校	都立向丘高等学校
158	都立学校	都立豊島高等学校
159	都立学校	都立千早高等学校
160	都立学校	都立工芸高等学校
161	都立学校	都立北豊島工科高等学校
162	都立学校	都立赤羽北桜高等学校
163	都立学校	都立浅草高等学校
164	都立学校	都立荒川工科高等学校
165	都立学校	都立両国高等学校
166	都立学校	都立小松川高等学校
167	都立学校	都立葛飾商業高等学校
168	都立学校	都立墨田工科高等学校
169	都立学校	都立科学技術高等学校
170	都立学校	都立橘高等学校
171	都立学校	都立八王子東高等学校
172	都立学校	都立八王子北高等学校
173	都立学校	都立八王子拓真高等学校
174	都立学校	都立八王子桑志高等学校
175	都立学校	都立昭和高等学校
176	都立学校	都立多摩高等学校
177	都立学校	都立東村山西高等学校
178	都立学校	都立東久留米総合高等学校
179	都立学校	都立府中西高等学校

180	都立学校	都立第五商業高等学校
181	都立学校	都立農業高等学校
182	都立学校	都立一橋高等学校
183	都立学校	都立芝商業高等学校
184	都立学校	都立第一商業高等学校
185	都立高等専門学校	都立産業技術高等専門学校荒川キャンパス
186	都立高等専門学校	都立産業技術高等専門学校品川キャンパス
187	都立学校	都立あきる野学園
188	都立学校	都立武蔵台学園
189	都立学校	都立八王子西特別支援学校
190	中学校	
191	中学校	
192	中学校	新島村立式根島中学校
193	中学校	利島村立利島中学校
194	中学校	小笠原村立母島中学校
195	都立学校	都立白鷗高等学校附属中学校
196	私立中学校	明治学院中学校
197	私立中高	八王子学園八王子中学校・高等学校A館
198	私立中高	八王子学園八王子中学校・高等学校C館
199	私立中高	東京電機大学中学校・高等学校
200	私立中高	八王子実践中学校高等学校
201	私立中高	成城学園中学校高等学校
202	私立高校	明治学院東村山高等学校
203	民間施設	ベルサール八重洲
204	民間施設	ベルサール新宿グランド
205	民間施設	ベルサール東京日本橋
206	民間施設	セミナーハウス クロス・ウェーブ府中
207	民間施設	タイム 24 ビル
208	民間施設	TKP 新橋カンファレンスセンター
209	民間施設	TKP 品川カンファレンスセンター
210	民間施設	NS 会議室
211	民間施設	多摩永山情報教育センター

212	大学等教育施設	i U情報経営イノベーション専門職大学
213	大学等教育施設	立教大学（池袋キャンパス5号館）
214	大学等教育施設	東京学芸大学中央2号館南講義棟
215	大学等教育施設	東京学芸大学中央4号館北講義棟
216	大学等教育施設	大妻女子大学千代田キャンパスA棟
217	大学等教育施設	大妻女子大学多摩キャンパス3号館
218	大学等教育施設	日本大学経済学部7号館
219	大学等教育施設	明治大学和泉キャンパスラーニングスクエア
220	大学等教育施設	明治大学中野キャンパス
221	大学等教育施設	帝京平成大学中野キャンパス
222	大学等教育施設	青山学院大学相模原キャンパスE棟
223	大学等教育施設	青山学院大学相模原キャンパスF棟
224	大学等教育施設	中央大学多摩キャンパス3号館
225	大学等教育施設	文化学園大学ABC棟
226	大学等教育施設	東京総合美容専門学校
227	その他	東京都教職員研修センター

<予備日>

番号	施設種別	会場名
1	都立学校	都立大島高等学校
2	都立学校	都立大島海洋国際高等学校
3	都立学校	都立小笠原高等学校
4	都立学校	都立南多摩中等教育学校
5	都立学校	都立町田高等学校
6	都立学校	都立昭和高等学校
7	私立中高	上野学園中学校・高等学校
8	民間施設	セミナーハウス クロス・ウェーブ府中
9	民間施設	TKP 新橋カンファレンスセンター
10	大学等教育施設	立教大学（池袋キャンパス10号館）
11	大学等教育施設	東京学芸大学中央2号館南講義棟
12	大学等教育施設	東京学芸大学中央4号館北講義棟
13	大学等教育施設	文化学園大学ABC棟

14	大学等教育施設	桜美林大学新宿キャンパス
15	その他	東京都教職員研修センター

■会場種別

令和5年度は、以下種別の会場を設置した。

日程	会場種別	用途	会場数
本試験	特別措置専用会場	島しょ部以外の特別措置の受験者が受験	19
	島しょ部会場	島しょ部の受験者が受験	10
	完全個人会場	完全個人の受験者が受験	2
	その他会場		2
	通常会場	上記以外の受験者が受験	194
予備日	学校とりまとめ会場	島しょ部以外の学校とりまとめの受験者が受験	10
	完全個人会場	完全個人の受験者が受験	2
	島しょ部会場	島しょ部の受験者が受験	3

■部屋の種別

令和5年度は、以下種別の部屋を設置した。

部屋の種別	主な用途	備考
受験教室	特別措置対象受験者以外の受験者の受験	
特別措置室	特別措置の対象受験者の受験	一部会場のみ に設置
別室	試験開始前の機器不具合の申し出、試験開始 タイミングのボタン操作を誤った場合等が発生 した時の受験	
本部室	資材の保管、資材の配布準備、監督者の打ち 合わせ・休憩・飲食	
休憩室	体調不良時の一時休憩	

同行者控室	受験者の同行者の待機	一部会場のみ に設置
遅刻者対応室	遅刻した受験者の受験、もしくは一時的な待機	
携帯回収員控室	受験者の携帯電話を回収するスタッフの控室	
警備員控室	警備員の控室	

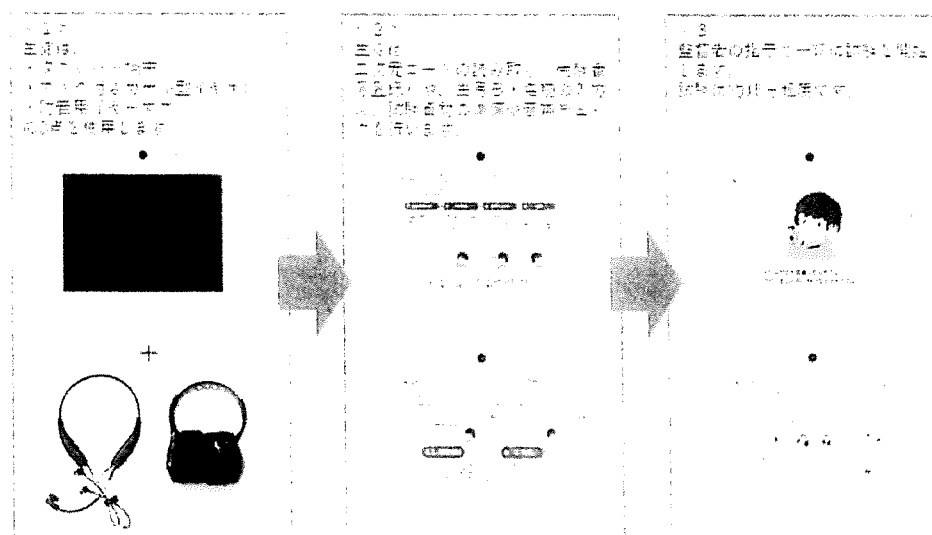
(3) 実施方式

弊社で独自に製造しているタブレット端末を使用してスピーキングテストを実施した。

■実施全体の流れ



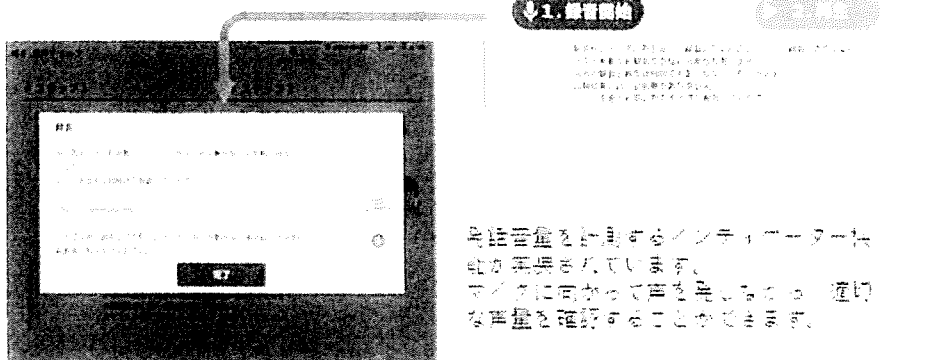
■生徒による受験の流れ



なお、機器の不具合等トラブル防止の事前対応策として、以下のとおり試験開始前に「音声チェック」を行っている。

音声チェック

試験開始前に、タブレットで「自分の声が録音できるか、その声ははっきりと聞こえるか」を生徒本人が確認します。音声録音・再生に問題があった場合は予備の教材と交換し、試験を実施します。



また、試験問題部分は全て自動遷移のため、生徒が操作を行う必要はない。なお、問題指示文は、全て音声で読み上げられる。

■タブレット端末やイヤホンマイクに関する対応

試験開始前の「音声チェック」等で、生徒から不具合の申告があった場合には、即時対応、実施継続を第一優先とし、機器の交換を行うことで対応した。

■イヤホンマイクに関する対応

ESAT-Jでは元々、万が一の機器不良に備え、イヤホンマイクからの主音声だけでなく、タブレットの内蔵マイクからの録音も同時に行い、どちらかの音声で採点できるバックアップの仕組みと、採点マニュアルを整えている。

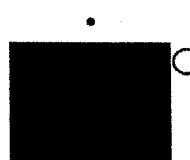
イヤホンマイク（メイン）



マイク

ハードウェア・OS

内蔵マイク（サブ）



テストシステム

解答音声

+

■実施環境整備の方針

スピーキングテストを公平かつ適正に受験できる実施環境を整備する。

■実施環境の整備

弊社が環境整備を行った会場について、以下のとおり報告する。なお、ここでは、都立高校、都立中等教育学校及び都立高等学校附属中学校を利用した会場を「都立会場」、それ以外の民間施設及び大学等を「一般会場」と記す。

	項目	実施内容
1	問題漏えいの防止	前半／後半の受験者の接触を防ぐ動線管理として、フロアごとに前後半の受験教室をわけて設置した。 休憩時間の分離と、接触を防止する動線の設計を行った。
2	受験教室での解答の音もれ防止	都立会場では、1教室当たり28名の定員として受験者を着席させた。 一般会場では、受験者の席の間隔を1メートル確保した。
3	特別措置対応	本試験では、特別措置専用会場を設置した。 予備日においては、受験会場（都立会場及び一般会場）で、特別措置室を設置した。

■当日の状況

監督者および実施責任者は、事前に決められた対応方針・判断基準をもとに適切な対応を行った。

■再試験対応

再試験については、以下のとおり、対応を行った。

ア 対象者

60 人

イ 主な要因

項目	件数
(1) 機器の不具合 (【試験開始】ボタン押下後の機器不良等)	33
(2) イヤーマフ・イヤホンの装着関連 (正しく装着できない、途中で外れてしまった等)	11
(3) 現場対応の誤り等	16
計	60

(ア) 機器の不具合

機器の不具合として、音声再生・録音不良、画像の乱れ、フリーズなどの事例が発生した。

現場では即時対応、実施継続を第一優先とするため、【試験開始】ボタンを押す前の準備段階で、受験者から不具合の申告があった場合は、機器を交換して別室で実施しており、再試験対応にはなっていない。

【試験開始】ボタンを押した後に申告するなど、当日の実施継続が困難なことから再試験対応とした件数が 33 件であるが、実際に機器を確認した結果、操作の不慣れさ等から、受験者が機器不良と思い込んで申告した場合も含まれている。

(イ) イヤーマフ・イヤホンの装着関連

イヤーマフ・イヤホンを正しく装着できなかったり、途中で外れてしまったりする事例が発生した。

(ウ) 現場対応の誤り等

研修により運用の周知を行ったが、以下の現場対応の誤りが発生した。

- ・ 特別措置申請者に対して、特別措置用の冊子の取り出し指示をせず、補助の役割を担っていた特別措置監督も対応をサポートできなかったため、特別措置申請者が特別措置用の冊子をどのように利用するか分からず、利用できなかった。
- ・ 【試験開始】ボタンを誤って早く押した生徒は、タブレットを強制終了し、別室ではじめから受験することとなっていたが、別室に移動した生徒に対し、監督者が誤って【中断位置から再開する】ボタンを押させたため、試験が途中から開始されてしまった。

ウ 対応

受験者及び保護者に説明・謝罪の上、希望者に対し再度の受験機会を設定した。

(4) 特別措置を要する生徒への対応

視覚に障害のある生徒、聴覚に障害のある生徒、きつ音の症状のある生徒、肢体に障害のある生徒、持病・心理面での配慮が必要な生徒、日本語補助が必要な生徒等を対象に、以下の特別措置を行うことを想定し、各種資材の準備や実施当日の対応を行った。

措置区分	特別措置の概要
視覚関係(点字、拡大文字)	
1	点字問題による受験(試験時間の延長あり)
2	拡大問題冊子による受験(試験時間の延長あり)
3	拡大問題冊子による受験(試験時間の延長なし)
視覚関係(色覚特性)	
4	白黒印刷問題冊子による受験
聴覚関係	
5	音(音声)を文字化した問題での受験(音声の聞き取りなし)
6	音(音声)を文字化した問題での受験(音声の聞き取りあり)
7	音(音声)の聞き取りありでの受験(音声を文字化した問題なし)
きつ音・発話障害関係	
8	解答時間の延長
上肢不自由	
9	受験会場等に関する措置
発達障害	
10	受験会場等に関する措置(試験時間の延長あり)
11	受験会場等に関する措置(試験時間の延長なし)
下肢不自由	
12	受験会場等に関する措置
その他(持病・心理面での配慮が必要な場合等)	
13	受験会場等に関する措置
日本語の補助(日本語指導が必要な場合・読み書き障害)	
14	日本語に対する補助 【日本語指導が必要な場合の本措置の申請条件】 国籍を問わず、入国後の在日期間が本テストを受験した日の翌年4月1日現在、原則として6年以内の者で、日本語指導を必要とする者

都内公立中学校に在籍の生徒で特別措置が必要な生徒の本試験の申請は、7月6日～8月18日の特別措置申請期間に、WEBで「特別措置申請」として受け付けた。なお、特別措置申請については、所属中学校の学校長が承認していることを確認するため、書面による申請書も同時にWEBにアップロードする方式で対応した。事前に東京都教育委員会と合意していた審査基準に基づき、申請内容に関する審査を実施し、テスト全体としての公正性を担保した。

また、保護者や生徒にも十分周知されるよう、東京都教育委員会と連携し、年度当初に区市町村教委を通じて、学校に対する事業の周知や年間スケジュールの共有を行った。

■その他の特別措置対応例

- ・イヤホン等の資材の事前準備及び資材装着の代行
- ・特別ヘッドセットの用意
- ・タブレット入力作業の代行

(5) 監督者

■令和5年度の各会場における監督者の役割及び実施体制

以下の役割・体制で監督業務を行った。

役職	役割	試験中の配置	必要人数
実施責任者	全体の把握、進行管理	本部室	1名/会場
実施副責任者	実施責任者のサポート	本部室又は廊下	1名/会場
教室監督	・スピーキングテストにおける受験者への説明および指示 ・試験中は原則前方で全体の進行状況の管理、不正の監視 ・教室内の出席人数、欠席人数の確認	受験教室	1名/受験教室
教室監督(遅刻者対応)	・遅刻者対応室における試験監督 ・遅刻者対応室における監視	遅刻者対応室	1名/会場
別室監督	・別室における試験監督 ・会場窓口での対応	本部室又は別室	3名/会場
補助監督(会場入口係)	遅刻した受験者への遅刻者対応室への案内	会場入口	1名/会場
補助監督(フロア担当)	・受験教室でのトラブル発生時のトラブル内容の実施責任者への伝達 ・休憩時の前後半の受験者の接触防止対応	廊下	1名/各受験教室フロア
補助監督(上記以外)	・スピーキングテスト中の資材配布、タブレット操作のフォロー ・本人確認 ・実施後の資材の回収・運搬 ・別室発生時の別室への誘導 ・会場敷地内の受験者誘導	受験教室	3名/受験教室 ※下記補足参照
待機監督	待機教室における監視	待機教室	1名/待機教室
特別措置監督	特別措置が必要な受験者の対応	専用会場に	必要に応じ

		おける特別 措置室	て配置
--	--	--------------	-----

※補助監督については、28 名教室の場合に 3 名を配置するが、教室規模に応じて人数は変動する。

■監督者の研修

監督者が当日の試験運営業務を滞りなく実施するため、試験監督業務に携わる全ての監督者へ事前に研修を行った。

研修はWEB／動画を用いることで、教室監督の指示等を分かりやすく提示した。試験運営業務が初めての監督者であっても、業務内容を把握でき、後述の理解度テストで誤答した箇所や、重要な箇所についても再度視聴・確認することで、確実に理解させることができた。実施責任者については、WEB上の動画視聴に加え、対面もしくはオンラインにて研修を行い、試験当日の業務全体の流れを理解し、各監督者に指示ができるように教育を行った。

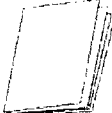
なお、全ての監督者は監督業務に関する理解度テストを受験し合格した者を当日業務にあたらせた。

理解度テストには、一般監督員用実施運営マニュアルの内容の確認に加え、監督としての心構え、遵守事項等も含まれる。また、当日に使用する一般監督員用実施運営マニュアルのうち、受験者への教示の部分は、東京都教育委員会にも事前に確認を行った。研修内容やマニュアル等については、令和4年度までの課題や改善点を考慮した内容とし、円滑に試験進行ができるよう準備を行った。

事前に上記のとりの教育を行った上で、業務の始めに「教室監督」を担う者は発声確認を行い、声量、発話スピード等、一定の基準から適切ではないと実施責任者が判断した場合、会場内での役職変更等を行い、予定どおり試験を実施できる体制を構築した。

(6) 結果返却

令和5年度については、下記の表に記載の内容で結果返却を行っている。

年度	種別	A. 学校とりまとめ向け (都内公立中)	B. 完全個人向け (国私立中等、パウチャー申込者)	C. 自治体向け	D. 東京都向け
令和5年度	返却物				
	備考	・生徒用帳票(紙)：1人2部提供7、本試験は1月19日、予備日は1月29日に発送 ・教師用帳票(マーク)：本試験は1月11日、予備日は1月25日に結果公開 ・「申込状況一覧」が「ESAT-Jスティア」ESAT-J GRADE」のダウンロードも可	・国私立中・他校については、所属中学校へ送付 ・体験必修・卒業生については、東京都へ送付 ・都内公立中の内、申出期間以降の転入生等パウチャーを利用して申込した生徒については、所属中学校へ送付	・行政用帳票は本試験分のみを1自治体2部提供(予備日分はない)、2月13日発送	・最終報告書 ・速報 ・完全個人分の成績一覧シート(学校取りまとめ分の提供はない)

なお、令和5年度の「生徒用帳票」には、以下の項目が出力されている。

- ・送付先住所(生徒用マイページで入力した住所、B. 完全個人向けのみ)
- ・姓名(漢字・カナ)
- ・受験番号
- ・受験口
- ・中学校名
- ・学年組番(A. 学校とりまとめ向けのみ)
- ・スピーキングスコア
- ・ESAT-J GRADE
- ・参考 CEFR レベル
- ・ESAT-J GRADE Can-Do Statements
- ・学習アドバイス
- ・ESAT-J GRADE 別 英語力アップのためのアドバイス 二次元コード

中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) スコアレポート

所属学校：〇〇中学
東京 花子

受験番号：〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
受験日：〇月〇日 2023

東京 花子 様

YKMD0112340*
L00001A L000001 L070*



この報告書は、本テストの結果を知らせるために作成されています。
印刷・複製・転載を禁じます。

今回の結果

SCORE	50
ESAT-J GRADE	C
参考 CEFR レベル	A1

ESAT-J GRADE Can-Do Statements

相手に話しかけたり、自分のことについて質問に答えたり、自分の考えと理由を話したりすることができる。文を組立てながら話すことができる。

CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) は、ヨーロッパ評議会 (Council of Europe) によって定められた、外国語能力の指標です。

この報告書は、本テストの結果を知らせるために作成されています。
印刷・複製・転載を禁じます。



学習アドバイス

【コ】あなたは「自分の考えとその理由を説明する力」を伸ばす必要があります。日常会話でよく使われる表現について、自分の考えと理由を、具体例を加えながら話す練習をしましょう。【カ】「正しい文法を適切に使う力」を高めることがポイントです。学習した基本文型は、様々な表現と変えて、場面に合わせて使える表現を増やしましょう。

【ロ】リスニングの練習は、【コ】学習の基礎となります。【カ】学習は、さまざまな種類の教材を活用して進めましょう。

【参考】ESAT-J GRADE Can-Do Statements

ESAT-J GRADE	得点域	can-do statements
A	80~100	身近な話題について、相手と意見交換ができる。メディアのある内容を聴いたり、自分の考えや理由、具体例を話したりすることができる。必要に応じて自分から相手と話を進めることができる。
B	65~79	相手のことについて質問をしたり、自分のことについて質問に答えたりすることができる。自分の考えと理由を話したりすることができる。文を組立てながら自分の考えを伝えることができる。
C	50~64	相手に話しかけたり、自分のことについて質問に答えたり、自分の考えと理由を話したりすることができる。文を組立てながら自分の考えを伝えることができる。
D	35~49	自分のことについて質問に答えたり、自分の考えと理由を話したりすることができる。必要に応じて自分から相手と話を進めることができる。自分の考えと理由を話したりすることができる。
E	1~34	自分のことについて質問に答えたり、自分の考えと理由を話したりすることができる。必要に応じて自分から相手と話を進めることができる。自分の考えと理由を話したりすることができる。
F	0	英語で話せることができない。

令和5年度 生徒用帳票イメージ (A. 学校とりまとめ向け)

- 65 -

(7) 問合せ対応

学校からの問合せ窓口と、生徒・保護者からの問合せ窓口の2つについて、コールセンターの構築と運営を行った。

問合せ窓口に関しては、「中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) 先生専用窓口」「中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) 受験者向け専用窓口」として、令和5年4月1日より開設。また、「中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) 特別措置専用窓口」として、令和5年5月25日に開設し、実際に入ってきた問合せ件数・内容は以下のとおりである。

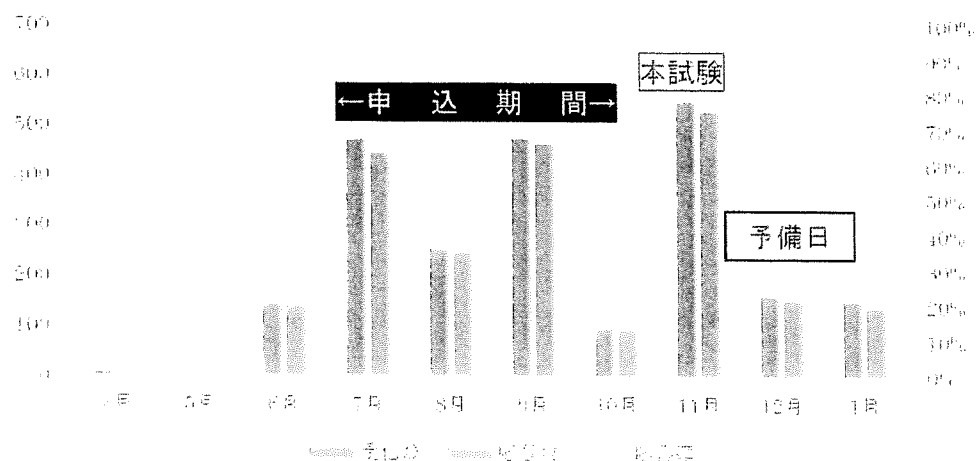
◆入電・応答状況推移◆ 表の見方

以降で使用する用語とその意味は、次のとおりである。

- 「入電件数」⇒問合せ（入電）件数
- 「応答件数」⇒問合せに対し、窓口で対応した件数
- 「応答率」⇒「応答件数」を「入電件数」で割ったもの（％）

【1】入電件数と応答件数状況（月別）

＜1-1＞入電件数（学校（教師）） 令和6年1月26日時点（合計：2,309件）



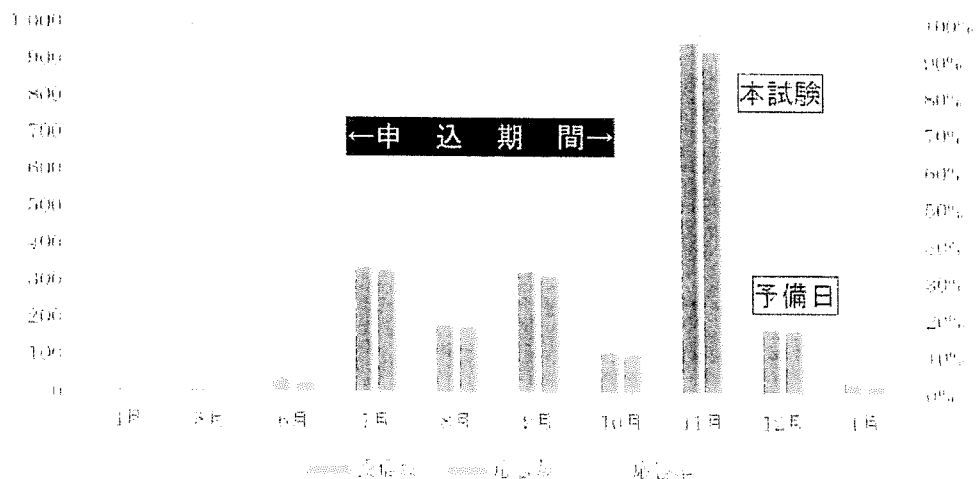
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
受信数	4	1	146	473	254	474	97	549	161	150	2,309
応答数	4	1	144	445	250	465	96	528	153	139	2,225
応答率	100%	100%	99%	94%	98%	98%	99%	96%	95%	93%	96%

上記の通り、7月「申込期間開始（学校とりまとめ）」、9月「申込期間終了（学校とりまとめ）」、11月「本試験」にかなりの入電が集中しているが、内容については「試験申込」及び「試験実施」に関するものがほとんどであった。

<1-2>学校（教師）からの主な問合せ内容

7月～9月	申込方法、特別措置申請方法、申込状況確認方法など
10月～11月	申請内容の修正方法、申請締切後の対応方法、転入生の対応方法など
11月	本試験に関する案件（当日の資材、欠席連絡対応の確認など）
12月	予備日に関する案件（申請基準、申請方法、欠席対応など）
1月	結果返却に関する案件

<2-1>入電件数（生徒・保護者） 令和6年1月26日時点（合計：2,171件）



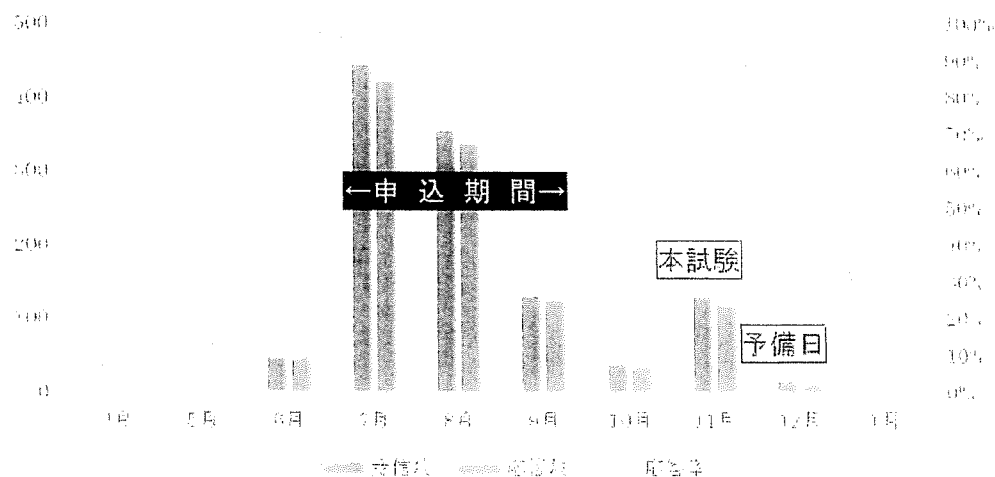
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
受信数	5	4	38	344	186	330	111	949	174	30	2,171
応答数	5	4	36	336	186	322	111	926	172	30	2,128
応答率	100%	100%	95%	98%	100%	98%	100%	98%	99%	100%	98%

上記のとおり、11月「本試験」にかなりの入電が集中しているが、内容については「試験実施」に関するものがほとんどであった（試験当日の遅刻・欠席連絡、欠席した後の対応についての問合せも含む）。なお、7～9月「申込期間（学校とりまとめ）」にも多くの入電が集中しているが、「試験申込」に関連するものが多数を占めた。

<2-2>生徒・保護者からの主な問合せ内容

7月～9月	申込方法、申込確認方法、申込締切後の申込確認、特別措置申請方法など
10月～11月	私立・都外在住の生徒の申込方法、試験当日について、本試験の欠席対応など
12月	予備日の申請方法、欠席対応など
1月	結果確認方法など

<3-1>入電件数（特別措置） 令和5年12月28日時点（合計：1,156件）：年内で終了



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
受付数	0	0	47	444	355	130	37	129	14	0	1,156
応答数	0	0	47	422	337	125	37	118	12	0	1,098
応答率	-	-	100%	95%	95%	96%	100%	91%	86%	-	95%

7～8月「申込期間（学校とりまとめ）」にかなりの入電が集中しているが、内容については「特別措置の申請基準や申込」に関連するものがほとんどであった。

なお「予備日」に向けての「特別措置」に関する入電が、11月にもあった。

<3-2>「特別措置」窓口からの主な問合せ内容

7月～9月	特別措置の申請基準、申請方法
11月	特別措置の申請基準、申請方法

【2】チャットボットの活用

生徒／保護者からの問合せについて、より利便性高く、迅速に課題解決ができるように、「申込ページ」にチャットボットを設置した。あらかじめ生徒及び保護者より多くの問合せが発生しそうな事項への回答を、チャットボットでも確認できるよう対応を進めた。

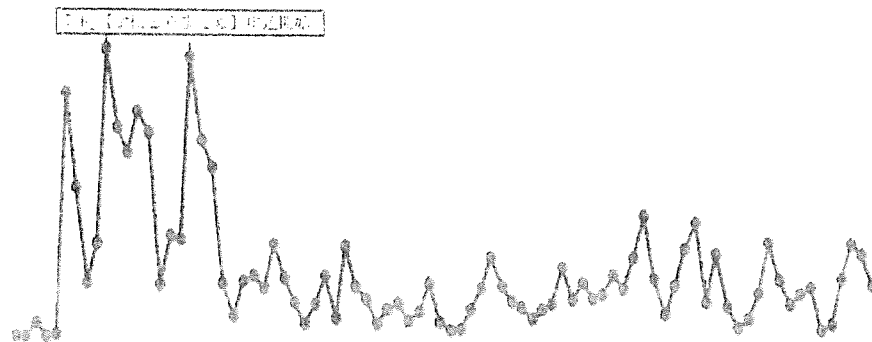
◆チャットボット利用率推移◆ 表の見方

以降で使用する用語とその意味は、次のとおりである。

- 「ボット起動数」⇒チャットボットを立ち上げた数
- 「クリック数」⇒意図的にチャットに入り、チャットの質問を1つでも選択した数
- 「離脱率」⇒チャット終了時の「終了します：はい・いいえ」まで行かず、途中で離脱した率（問題が解決しても、最後のメッセージまで確認せず、途中で画面を閉じた場合は、これに含まれる）

<1-1>チャットボット分析 (7/1-9/22)

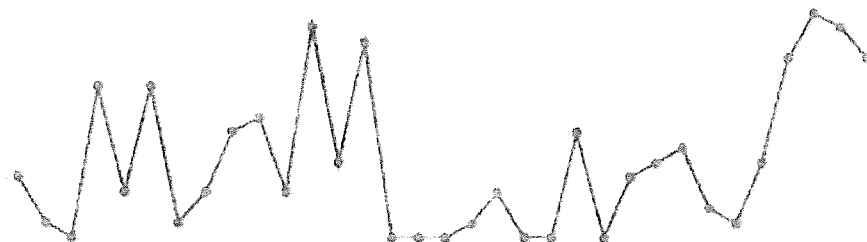
ボット起動数	クリック数	離脱率
9102	5171	42.35%



ランク	質問事項	クリック数
1	写真の規定について教えてください。	240
2	ログインできません	238
3	写真の登録は必須ですか？	235
4	写真はスマートフォン・タブレット等で撮影したものを使用してよいですか？	234
5	一度登録した写真の変更はできますか？	216
6	写真がアップロードできません。	195
7	パスワードを忘れました	170
8	申し込みが完了しているか確認したい	151
9	「生徒個人IDまたはパスワードが間違っています。生徒個人IDとパスワードを確認して、もう一度ログインしてください」というエラーメッセージが出ます。	121
10	申し込みはいつまでですか？	85

<1-2>チャットボット分析 (9/23-10/25)

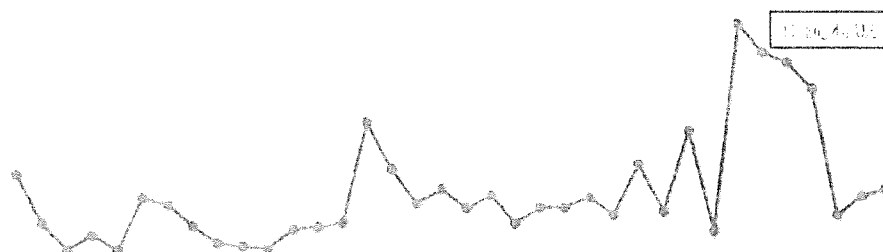
ボット起動数	クリック数	離脱率
169	90	46.75%



ランク	質問事項	クリック数
1	一度登録した写真の変更はできますか？	6
2	申し込みはいつまでですか？	4
3	ログインできません	3
4	特殊な漢字のため、正式な漢字で登録できない	3
5	パスワードを忘れました	3
6	写真はスマートフォン・タブレット等で撮影したものを使用してよいですか？	3
7	写真の登録は必須ですか？	2
8	写真の規定について教えてください。	2
9	自分の情報を間違えて登録してしまいました。	2

<1-3>チャットボット分析 (10/26-11/30)

ボット起動数	クリック数	離脱率
1550	568	44.81%



ランク	質問事項	クリック数
1	近試験を受けたい、どうすればよいか。	47
2	ログインできません	41
3	再試験を受けたい、どうすればよいか。	36
4	パスワードを忘れました	34
5	受験票はどこにあるのですか？	31
6	「生徒個人IDまたはパスワードが間違っています。生徒個人IDとパスワードを確認して、もう一度ログインしてください」というエラーメッセージが出ます。	26
7	近試験の申請の際に、診断書や証明書を生徒用マイページにアップロードする必要はあるか。	25
8	予備日(近試験)申請書作成の際に参照する診断書や証明書にきまりはあるか。	24
9	「近試験の質問」とは何ですか？	22
10	申し込みが完了しているか確認したい	17

3. 中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) の受験者対応・情報発信

(1) 問題・採点基準の公開

「中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J)」における令和5年度の問題、採点基準などについて、以下の内容を東京都の「【特設ページ】中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J)」にて公表した。

- ① スクリプト (PDF)
- ② 解答例 (PDF)
- ③ 採点基準 (PDF)

また、「中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J)」における令和4年度の問題、採点基準などについては、東京都の「【特設ページ】中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J)」に上記内容①～③を掲載している。令和元年度プレテスト、令和2年度確認プレテスト①、令和3年度確認プレテスト②、令和4年度中学校英語スピーキングテストについては、東京都のグローバル人材育成に係るウェブサイト「Tokyo Global Student Navi」に上記内容①～③と以下の内容を掲載している。

- ④ 問題 (出題アプリの画面の動画) 解答音声なし
- ⑤ 問題 (出題アプリの画面の動画) 解答音声あり

(2) 周知

■ 区市町村教育委員会・学校向け説明会開催概要

区市町村教育委員会及び学校が「事業の目的やねらい」と「テスト内容」、「テスト活用イメージ」を理解できるように、令和5年度受験対象の中学校を対象に下記のとおり説明会を開催した。

<開催日>

令和5年 5月29日 (月) ・ 6月5日 (月)

<会場>

令和5年 5月29日 (月) 杉並公会堂

令和5年 6月9日 (月) たましんRISURUホール

＜説明内容＞

- 1 ご挨拶
- 2 事業概要
 - 2－0 東京都における英語教育の取組
 - 2－1 ESAT-Jの意義・目的
 - 2－2 ESAT-Jの設計
 - 2－3 周知
 - 2－4 入選活用
 - 2－5 中学校第1学年、第2学年での実施
- 3 実施概要
 - 3－1 ESAT-Jの実施概要
 - 3－2 全体スケジュール
 - 3－3 学校へのお願い事項
- 4 確認事項
 - 4－1 対象者
 - 4－2 特別措置
 - (1) 障害等のある受験者や日本語指導の必要な受験者に対する特別措置
 - (2) 個別の状況や障害特性等による都立高校入学者選抜学力検査における換算措置
 - (3) ESAT-J体験受験
 - 4－3 個人情報の取扱い
 - 4－4 申込期間以降の転入生の対応
 - 4－5 当日の欠席
 - 4－6 その他
 - 4－7 様式
- 5 結果の活用
 - 5－1 結果の返却
 - 5－2 令和4年度の出題内容と結果
 - 5－3 教員の授業改善
 - 5－4 生徒の学習改善

■生徒・保護者向け事業説明リーフレット

受験者と保護者への周知を目的にリーフレットを作成し、データを東京都教育委員会に提出の上、学校経由で配布した。

(3) 音声データの提供

受験者本人が、話した内容を解答例と照らし合わせて、よりよく相手に伝えるために気を付けることや使うとよい表現を考えるなど、今後の英語スピーキング「話すこと」の力の向上に活用することを目的として東京都教育委員会が行う。

内容は、本人の音声を抽出処理したデータとした。

■申請期間及び提供開始日

- ・都立高等学校入試（第一次募集・分割前期募集）における不合格者

※エンカレッジスクール、チャレンジスクール、英語学力検査を実施しない高等学校は対象外

申請期間：令和6年3月1日から8月31日まで

提供開始日：令和6年3月中旬以降

- ・上記以外

申請期間：令和6年5月1日から8月31日まで

提供開始日：令和6年5月中旬以降

(4) 結果の活用

■中学校

・スピーキングテスト結果の活用サポート

区市町村教育委員会及び公立中学校がスピーキングテストの結果（データ）を指導改善につなげるため東京都教育委員会に対して以下を実施した。

- ・東京都全体のスピーキング結果分析及び結果報告
- ・区市町村教育委員会別及び学校別の結果報告

なお、区市町村教育委員会に向けては、結果報告書を、全ての区市町村教育委員会に送付した。

・学校向けの活用支援

各中学校でスピーキングテストの結果分析ができるよう、実施校向けに教師用帳票をデータにて提供した。具体的な指導改善を検討できるよう帳票を工夫し、中学校（英語科）としての指導改善に向けた活用を支援する。

■高等学校

令和4年度より、生徒が自分の出願する都立高等学校へESAT-Jの受験結果を提出することにより、受け入れる都立高等学校側で入学した生徒の英語の「話すこと」に関する力を把握し、高校での指導に生かすことができた。

4. まとめ

試験問題作成及び採点・点検業務を含む中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の実施・運営を通して、令和5年度 中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）実施要項第1－1の目的の実現を図った。

5. 令和元年度から令和5年度の総括

令和元年度にプレテスト、令和2年度に確認プレテスト①、令和3年度に確認プレテスト②を実施し、それぞれの検証結果を次年度の試験問題、実施・運営体制、受験者対応・情報発信の改善へ生かすことができた。

令和4年度には、中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）を実施した（令和4年度より都立高等学校入学者選抜への結果の活用が開始となった）。また、受験者が英語「話すこと」の力の向上に活用することを目的として、音声データの提供を開始した。

令和5年度には、令和4年度の結果を踏まえた上で、東京都中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）を実施した。

5年間の協定期間において、試験問題作成及び採点・点検業務を含む中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の実施・運営を通して、中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の目的を実現した。

中学校英語スピーキングテスト

令和 5 年度 年次報告書

令和6年3月

中学校英語スピーキングテスト

令和5年度 年次報告書 目次

- 1 中学校英語スピーキングテスト ESAT-J YEAR 1/ YEAR 2 のテスト問題作成・評価
 - 1) 事前調査・研究
 - 2) 問題作成
 - 3) ESAT-J(第3学年)へのつながり
 - 4) ESAT-J YEAR 1 サンプル問題
 - 5) ESAT-J YEAR 2 サンプル問題
 - 6) 令和5年度 ESAT-J YEAR 1 問題
 - 7) 令和5年度 ESAT-J YEAR 2 問題
 - 8) 採点基準
 - 9) 採点
- 2 中学校英語スピーキングテスト ESAT-J YEAR 1/ YEAR 2 の実施・運営体制
 - 1) 実施概要
 - 2) 実施校からの情報収集
 - 3) 特別措置を必要とする生徒への対応
 - 4) 試験監督者トレーニング
 - 5) 問合せへの対応
- 3 中学校英語スピーキングテスト ESAT-J YEAR 1/ YEAR 2 結果
 - 1) 結果返却
 - 2) 結果分析
- 4 中学校英語スピーキングテスト ESAT-J, ESAT-J YEAR 1/ YEAR 2 に関する情報提供
 - 1) サンプル問題
 - 2) テスト活用のための情報提供
- 5 まとめ
- 6 令和6年度実施に向けた準備状況

1. 中学校英語スピーキングテスト ESAT-J YEAR 1/ YEAR 2 のテスト問題作成・評価

1) 事前調査・研究

日本の中学生の英語学習に即したスピーキングテストを作成するため、世界の同年齢の子供たちが受験しているスピーキングテストの問題について検証を行った。

また、学習指導要領に準拠したスピーキングテストの作成に当たって、文部科学省検定済教科書(全6種類)に取り扱われている語彙及び英語「話すこと」の言語活動を調査した。

2) 問題作成

ア 出題方針

中学校の教育課程に基づく学習の成果としての英語の「話すこと」の力をみる。

イ 出題内容

中学校学習指導要領(外国語)における「話すこと」に準拠した内容とする。

ウ 出題範囲

2学期修了時点での指導内容を想定し、以下の出題範囲を定めた。

教科書名 ※アルファベット順	ESAT-J YEAR 1	ESAT-J YEAR 2
BLUE SKY (啓林館)	p.93 (Project 2) まで	p.90 (ジェスチャーまで)
Here We Go! (光村図書)	p.103 (SING A SONG②) まで 及び帯教材 Let's Talk!	p.94 (SING A SONG②) まで 及び帯教材 Let's Talk!
NEW CROWN (三省堂)	p.112 (グリーティングカードを 送ろう) まで	p.90 (Project 2) まで
NEW HORIZON (東京書籍)	p.100 (Small Talk!②) まで	p.104 (Let's Listen ⑥) まで
ONE WORLD (教育出版)	p.100 (Reading ②) まで	p.94 (Reading ②) まで
Sunshine (開隆堂)	p.94 (Power-Up 5) まで	p.88 (Word Web ④) まで

エ 問題の構成

Part	ねらい	問題数		評価の観点
		Y1	Y2	
A	英文を読み上げる形式の問題で、英語音声の特徴を踏まえ音読できる力をみる。	1	2	○音声 (発音と強勢、読む速さや間の取り方などが適切か。)
B	図示された情報を読み取り、それに関する質問を聞き取った上で、適切に回答する力や、提示された情報をもとに「質問する」など、やり取りする力をみる。	3	4	○コミュニケーションの達成度 (求められていることに適切に対応しているか。)
C	図示された状況を読み取り、説明する力を見る。	1	1	○言語使用 (語彙や文法、文構造の使用が適切か。)
D	日常的な出来事について、話の流れを踏まえて相手に伝わるように状況を説明する力をみる。	1	1	○音声 (発音、話す速さや間の取り方などが適切か。)

3) ESAT-J(第3学年)へのつながり

各学年のテストのつながりを意識し、学年が進むにつれて段階的に発展した内容となる問題構成にすることで、教師や生徒が第1学年からの学びを次の学年に生かすことができる一連のテストとして、以下の図のとおり設計している。

目標とする CEFR-J レベル	A1.1 – A1.2	A1.2 – A1.3	A1.3 – A2.1
	目標とするレベルに相当する語彙、文法、インプットのトピック、実行されるアウトプットなどを設定		
テスト名	ESAT-J YEAR 1	ESAT-J YEAR 2	ESAT-J
大問1	音読	音読(2題)	音読(2題)
大問2	Q&A - やり取り 2つの質問への回答(準備時間なし)と1つの問いかけ(準備時間あり) - レベルに応じた質問項目	Q&A - やり取り 3つの質問への回答(準備時間なし)と1つの問いかけ(準備時間あり) - レベルに応じた質問項目	Q&A - やり取り 4つの質問への回答(準備時間なし)と1つの問いかけ(準備時間あり) - レベルに応じた質問項目
大問3	イラスト描写 - 準備時間あり - 身近で日常的な場面 - レベルに応じた対象の語彙とその位置を設定	イラスト描写 - 準備時間あり - 身近で日常的な場面 - レベルに応じた人物の行動、対象の語彙とその位置を設定	ナレーション - 準備時間あり - 過去の出来事を4コマのイラストを基に説明する - 過去形で話を説明する - 接続詞を用いて話を繋ぐ
大問4	ナレーション - 準備時間あり - 一般的な日常生活の習慣を3コマのイラストを基に説明する - 適切な表現で日常生活の習慣を説明する	ナレーション - 準備時間あり - 過去の出来事を3コマのイラストを基に説明する - 過去形で話を説明する - 接続詞を用いて話を繋ぐ	ショートスピーチ - 準備時間あり - トピックとアイディアのヒントを基に - 自分の意見を理由と例を挙げて発表する

4) ESAT-J YEAR 1 サンプル問題

Part A

○出題のねらいと測定している力

英文を読み上げる形式の問題で、英語音声の特徴を踏まえ音読できる力をみる。

○学習指導要領との関連性

2 内容(1)英語の特徴やきまりに関する事項

○採点観点:「音声」

Part A 音読の問題

Part Aは、音読の問題です。聞かれています。音声の音声の特徴を踏まえ、英文を音読して読んでください。

ただし、1. 音読時間があります。2. 音読開始の音の鳴りから、音読開始の音の鳴りまで、音読時間は4分5秒間です。

あなたは、この音読の音の鳴りから、音読開始の音の鳴りまで、音読時間は4分5秒間です。

Hello, everyone. Do you like animals? I have a small white rabbit. Her name is Momo. She eats a lot of food. She likes apples very much. We play together every day.

Part B

○出題のねらいと測定している力

図示された情報を読み取り、それに関する質問を聞き取った上で、適切に応答する力や、提示された情報をもとに「質問する」など、やり取りする力をみる。

○学習指導要領との関連性

1 目標(3)話すこと[やり取り]

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。

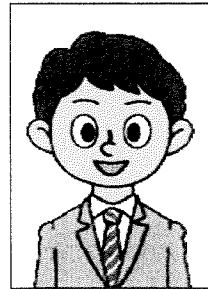
イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。

○採点観点:「コミュニケーションの達成度」「言語使用」「音声」

Part B 会話の問題

Part Bは、会話の問題です。聞かれます。あなたは、自分の考えや気持ちを、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができます。

ただし、1. 音読時間があります。2. 音読開始の音の鳴りから、音読開始の音の鳴りまで、音読時間は4分5秒間です。3. 音読開始の音の鳴りから、音読開始の音の鳴りまで、音読時間は4分5秒間です。



このイラストを詳しく説明する問題です。

Q1. What month is your birthday?

名前

姓

名

Q2. Which season do you like?

名前

姓

名

この問題は、イラストに対して、次の画面上に記入される文章について質問するものです。
この問題の準備時間は、5分間です。録音開始の音が鳴ってから、質問していただき、解答時間は10分以内です。

Q3. イラストに対して、決めたことを質問してください。

「好きなスポーツ」

名前

姓

名

Part C

○出題のねらいと測定している力

図示された状況を読み取り、説明する力を見る。

○学習指導要領との関連性

1 目標(3)話すこと[発表]

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。

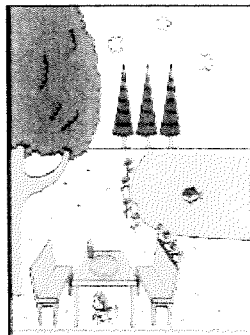
○採点観点:「コミュニケーションの達成度」「言語使用」「音声」

Part C イラストを説明する問題

Part C は、1枚のイラストに対して説明する問題で、1問あります。ここでは、図が見えますが、実際の試験では、

解答してください。

この問題の準備時間は20分間です。録音開始の音が鳴ってから、解答を開始してください。解答時間は10分以内です。



このイラストを詳しく説明する問題です。

名前

姓

名

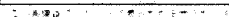
日常的な出来事について、話の流れを踏まえて相手に伝わるように状況を説明する力をみる。

1 目標(4)話すこと[発表]

イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

Figure 1. The effect of the concentration of the solution on the adsorption of the dye. The concentration of the solution was 0.01, 0.02, 0.03, 0.04, 0.05, 0.06, 0.07, 0.08, 0.09, 0.1, 0.2, 0.3, 0.4, 0.5, 0.6, 0.7, 0.8, 0.9, 1.0, 1.5, 2.0, 3.0, 4.0, 5.0, 6.0, 7.0, 8.0, 9.0, 10.0, 15.0, 20.0, 30.0, 40.0, 50.0, 60.0, 70.0, 80.0, 90.0, 100.0, 150.0, 200.0, 300.0, 400.0, 500.0, 600.0, 700.0, 800.0, 900.0, 1000.0, 1500.0, 2000.0, 3000.0, 4000.0, 5000.0, 6000.0, 7000.0, 8000.0, 9000.0, 10000.0, 15000.0, 20000.0, 30000.0, 40000.0, 50000.0, 60000.0, 70000.0, 80000.0, 90000.0, 100000.0, 150000.0, 200000.0, 300000.0, 400000.0, 500000.0, 600000.0, 700000.0, 800000.0, 900000.0, 1000000.0, 1500000.0, 2000000.0, 3000000.0, 4000000.0, 5000000.0, 6000000.0, 7000000.0, 8000000.0, 9000000.0, 10000000.0, 15000000.0, 20000000.0, 30000000.0, 40000000.0, 50000000.0, 60000000.0, 70000000.0, 80000000.0, 90000000.0, 100000000.0, 150000000.0, 200000000.0, 300000000.0, 400000000.0, 500000000.0, 600000000.0, 700000000.0, 800000000.0, 900000000.0, 1000000000.0, 1500000000.0, 2000000000.0, 3000000000.0, 4000000000.0, 5000000000.0, 6000000000.0, 7000000000.0, 8000000000.0, 9000000000.0, 10000000000.0, 15000000000.0, 20000000000.0, 30000000000.0, 40000000000.0, 50000000000.0, 60000000000.0, 70000000000.0, 80000000000.0, 90000000000.0, 100000000000.0, 150000000000.0, 200000000000.0, 300000000000.0, 400000000000.0, 500000000000.0, 600000000000.0, 700000000000.0, 800000000000.0, 900000000000.0, 1000000000000.0, 1500000000000.0, 2000000000000.0, 3000000000000.0, 4000000000000.0, 5000000000000.0, 6000000000000.0, 7000000000000.0, 8000000000000.0, 9000000000000.0, 10000000000000.0, 15000000000000.0, 20000000000000.0, 30000000000000.0, 40000000000000.0, 50000000000000.0, 60000000000000.0, 70000000000000.0, 80000000000000.0, 90000000000000.0, 100000000000000.0, 150000000000000.0, 200000000000000.0, 300000000000000.0, 400000000000000.0, 500000000000000.0, 600000000000000.0, 700000000000000.0, 800000000000000.0, 900000000000000.0, 1000000000000000.0, 1500000000000000.0, 2000000000000000.0, 3000000000000000.0, 4000000000000000.0, 5000000000000000.0, 6000000000000000.0, 7000000000000000.0, 8000000000000000.0, 9000000000000000.0, 10000000000000000.0, 15000000000000000.0, 20000000000000000.0, 30000000000000000.0, 40000000000000000.0, 50000000000000000.0, 60000000000000000.0, 70000000000000000.0, 80000000000000000.0, 90000000000000000.0, 100000000000000000.0, 150000000000000000.0, 200000000000000000.0, 300000000000000000.0, 400000000000000000.0, 500000000000000000.0, 600000000000000000.0, 700000000000000000.0, 800000000000000000.0, 900000000000000000.0, 1000000000000000000.0, 1500000000000000000.0, 2000000000000000000.0, 3000000000000000000.0, 4000000000000000000.0, 5000000000000000000.0, 6000000000000000000.0, 7000000000000000000.0, 8000000000000000000.0, 9000000000000000000.0, 10000000000000000000.0, 15000000000000000000.0, 20000000000000000000.0, 30000000000000000000.0, 40000000000000000000.0, 50000000000000000000.0, 60000000000000000000.0, 70000000000000000000.0, 80000000000000000000.0, 90000000000000000000.0, 100000000000000000000.0, 150000000000000000000.0, 200000000000000000000.0, 300000000000000000000.0, 400000000000000000000.0, 500000000000000000000.0, 600000000000000000000.0, 700000000000000000000.0, 800000000000000000000.0, 900000000000000000000.0, 1000000000000000000000.0, 1500000000000000000000.0, 2000000000000000000000.0, 3000000000000000000000.0, 4000000000000000000000.0, 5000000000000000000000.0, 6000000000000000000000.0, 7000000000000000000000.0, 8000000000000000000000.0, 9000000000000000000000.0, 10000000000000000000000.0, 15000000000000000000000.0, 20000000000000000000000.0, 30000000000000000000000.0, 40000000000000000000000.0, 50000000000000000000000.0, 60000000000000000000000.0, 70000000000000000000000.0, 80000000000000000000000.0, 90000000000000000000000.0, 100000000000000000000000.0, 150000000000000000000000.0, 200000000000000000000000.0, 300000000000000000000000.0, 400000000000000000000000.0, 500000000000000000000000.0, 600000000000000000000000.0, 700000000000000000000000.0, 800000000000000000000000.0, 900000000000000000000000.0, 10000000

1. 研究の目的と意義
 2. 研究の背景と動機
 3. 研究の範囲と対象
 4. 研究の方法と手順
 5. 研究の結果と考察
 6. 研究の結論と今後の展望



This is my day.

- できる力をみる。

圖 10-1-12 異質金屬的電位差

[illegible]

I work in the park. I hope
to see you there in spring.

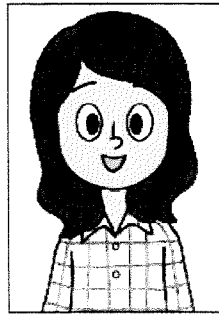
The reaction scheme shows the synthesis of 1,2,3,4-tetrahydro-1,4-benzodioxepine (1) from 1,2,3,4-tetrahydro-1,4-benzodioxepine (2) and 1,2,3,4-tetrahydro-1,4-benzodioxepine (3). The reaction is catalyzed by H^+ and H_2O in CH_2Cl_2 at 0°C for 1 hour. The yield of 1 is 100%.

started playing at eight years
old and to teach it in the future.

- 、適切に応答する力や、提示さ

$$S_{\text{max}} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{\alpha} + \frac{1}{\beta} \right) \left(\frac{1}{\alpha} + \frac{1}{\beta} + 1 \right) \quad (1)$$

○ 研究の目的と意義



イラストは、このイラストを説明する問題で使われます。

Q1. Where do you like to go on weekends?

Answer

Where do you like to go on weekends?

Q2. For a trip, which do you like to use, buses or trains?

Answer

For a trip, which do you like to use, buses or trains?

Q3. Why do you think so?

Answer

Why do you think so?

このイラストは、このイラストを説明する問題で使われます。

イラストは、あなたとグループに対して、次の画面上で書かれた内容を基に質問するものです。

この問題の準備時間は30秒間です。録音開始の音が鳴ってから、質問してください。質問時間は10秒以内です。

Q4. For a trip, which do you like to use, buses or trains?

「日本で行きたい場所」

Answer

For a trip, which do you like to use, buses or trains?

「日本で行きたい場所」

Part C

○出題のねらいと測定している力

図示された状況を読み取り、説明する力を見る。

○学習指導要領との関連性

1 目標(3)話すこと[発表]

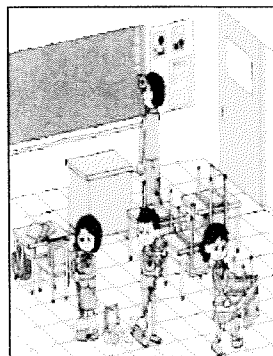
ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。

○採点観点:「コミュニケーションの達成度」「言語使用」「音声」

Part C イラストを説明する問題

Part C は、このイラストに対して説明する問題で、1問あります。このイラストを見て、また、誰かに話を聞いてもらって、それを説明できるように練習してください。

この問題の準備時間は30秒間です。録音開始の音が鳴ってから、解答を始めてください。解答時間は10秒以内です。



イラストは、このイラストを説明する問題で使われます。

Answer

Describe the illustration.

6) 令和5年度 ESAT-J YEAR 1 問題

ESAT-J YEAR 1

ESAT-J YEAR 1 本試験問題及び解答例

ESAT-J YEAR 1 本試験問題及び解答例

ESAT-J YEAR 1 は、リスニング問題と、読解・文法・語彙・作文の4つのパートで構成されています。リスニング問題は、英語の音声と日本語の字幕が同時に流れます。読解・文法・語彙・作文の4つのパートは、英語の音声と日本語の字幕が同時に流れます。

Part A 音読の問題

Part A は、音読の問題で、1問あります。聞いている人に、意味や内容を伝わるように、英文を声に出して読んでください。

はじめに準備時間が30秒あります。録音開始の音が鳴ってから、音読を始めてください。録音時間は1分30秒です。

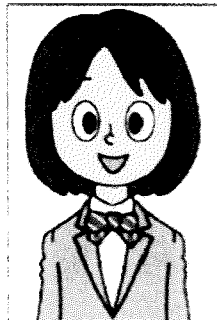
あなたは、今から週末の過ごし方について話をするところです。

Hi, everyone. What do you do on weekends? I like cooking. I cook dinner for my family every Saturday. They like my tomato soup very much. It's delicious.

Part B 会話の問題

Part B は、会話の問題で、3問あります。あなたは、日本に居る外国人の留学生のひとりと話していただきます。はじめに、1分があなたに2つの質問をします。

この質問には準備時間はありません。それぞれの質問の解答時間は1分30秒以内です。録音開始の音が鳴ってから、解答を始めてください。



Q1. What time do you get up every morning?

Q2. What is your favorite subject?

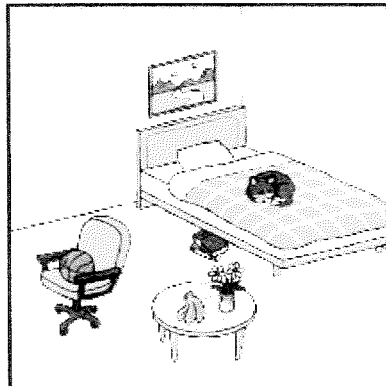
今度は、あなたがハナに対して、次のように表現される内容について質問する番です。
この質問の準備時間は1分30秒です。録音開始の音が鳴ってから、質問してください。質問時間は1分30秒以内です。

03. ハナに対して、次のことを質問してください。
「好きな音楽」

Part C イラストを説明する問題

Part Cは、1枚のイラストについて説明する問題で、1問あります。ここでは、何が見えますか、できるだけ多く解答してください。

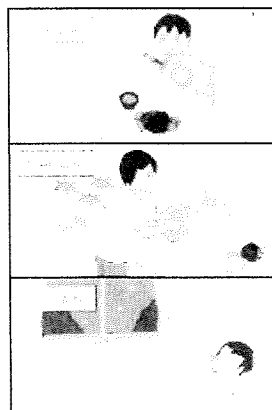
この問題の準備時間は2分30秒です。録音開始の音が鳴ってから、解答を始めてください。解答時間は3分30秒以内です。



Part D ナレーションをする問題

Part Dは、3枚のイラストについて説明する問題で、1問あります。あなたは授業で、ママ先生に毎日の習慣を英語で説明しようとしています。次の3枚のイラストがあなたの毎日の習慣であるとして、次の画面で表現される表現を最初に使って解答してください。

この問題の準備時間は3分30秒です。録音開始の音が鳴ってから、解答を始めてください。解答時間は4分30秒以内です。



この表現を最初に使って解答を始めてください。

This is my day.

7) 令和5年度 ESAT-J YEAR 2 問題

ESAT-J YEAR 2
英検準国際英語検定試験
English as a Second Language Test for Junior High School Students

ESAT-J YEAR 2 本試験問題及び解答例

ESAT-J 試験とは、次の三つの観点から、英語力を測る検定試験です。
①英語の基礎知識の習得状況
②英語の活用能力
③英語のコミュニケーション能力
この三つの観点から、英語力を測る検定試験です。

Part A 音読の問題

Part A は、音読の問題で、2 問あります。聞いている人は、意味や内容がわかるように、英文を声に出して読んでください。

それぞれの英文に準備時間があり、その後、録音開始の音が鳴ったら、音読を始めます。録音時間は、録音開始の音から始まります。

例 1: あなたは、自分のクラスについて英語で話します。

Hi, everyone! I go to dance class with my friends. There are twenty people in the class. We practice three days every week. We will dance at the school festival. Please come and watch us.

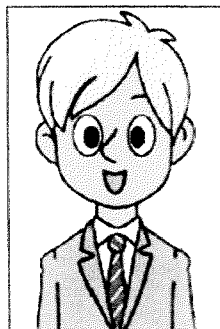
例 2: あなたは、学校で留学生のサポートをするボランティアに会います。

This is Kate. She came to Japan to visit our school. She loves running. This weekend, we are going to go running in the mountains. We hope it will be sunny.

Part B 会話の問題

Part B は、会話の問題で、4 問あります。あなたは、日本に来たばかりの留学生のジェーンと話しています。ジェーンは、あなたに三つの質問をします。

この質問に準備時間があります。それぞれの質問の解答時間は、録音開始の音が鳴ったら、解答を始めます。



Q1. What do you like to do on weekends?

Q2. Which is better, eating at home or eating at a restaurant?

Q3. Why do you think so?

Part C は、3枚のイラストについて説明する問題で、1問あります。あなたは音楽で、ハリー先生に半週の出発点を説明しようとしています。次の3枚のイラストがあなたの出発点であるとして、次の画面で表示される表現を最初に使って解答してください。

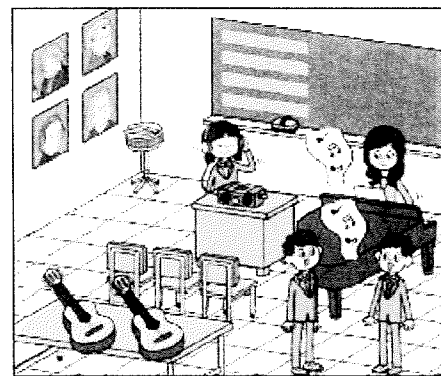
この問題の準備時間は30秒間です。録音開始の音が鳴ってから、解答を始めてください。解答時間は20秒以内です。

Q4. シェンに対して、次のことを質問してください。

『食べてみたい日本食』

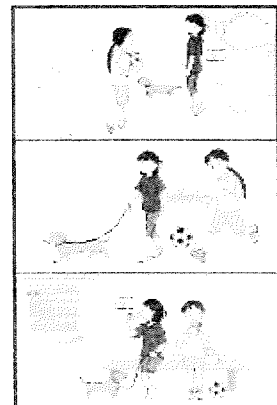
Part C イラストを説明する問題

Part C は、3枚のイラストについて説明する問題で、1問あります。あなたは音楽で、ハリー先生に半週の出発点を説明しようとしています。次の3枚のイラストがあなたの出発点であるとして、次の画面で表示される表現を最初に使って解答してください。



Part D ナレーションをする問題

Part D は、3枚のイラストについて説明する問題で、1問あります。あなたは音楽で、ハリー先生に半週の出発点を説明しようとしています。次の3枚のイラストがあなたの出発点であるとして、次の画面で表示される表現を最初に使って解答してください。



この表現を最初に使って解答を始めてください。

Last week ...

※ ME は表示された、最も適切な表現としてください。

8) 採点基準

これまでの ESAT-J の評価の観点を踏まえ、「コミュニケーションの達成度」、「言語使用」、「音声」の三つの観点で評価することとし、ESAT-J YEAR 1 及び ESAT-J YEAR 2 の採点基準をそれぞれ作成した。

9) 採点

4月以降に実施

2. 中学校英語スピーキングテスト ESAT-J YEAR 1/ YEAR 2 の実施・運営体制

1) 実施概要

● 受験者数

134,495 名

● 実施日

令和6年 1 月 22 日から3月 15 日までの期間に各中学校が設定した日

※ 第1学年及び第2学年は、原則として同一日に実施

※ 学級閉鎖の場合には、各学校と調整の上、別日に実施

● 会場

生徒が在籍する都内公立中学校

● 実施時間

学級単位で一単位時間を使って実施した。

● 実施方式

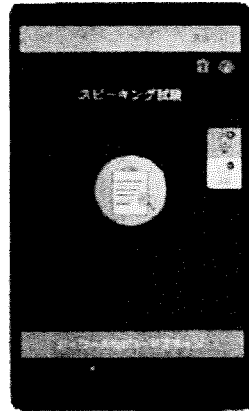
原則として、A方式で実施するものとし、やむを得ない理由により、専用の教室を設定できない場合に限り、B方式での実施も可能とした。

名 称	場 所	概 要
A方式	専用の教室	生徒は、各学校が決めた専用試験教室で受験 ※専用試験教室は、生徒全員が教室前方を向いて受験可能な教室 所要時間 試験実施(40 分)、教室移動(10 分)
B方式	各学級の教室	生徒は、各学級の教室で受験 所要時間 機材準備(5 分)、試験実施(40 分)、撤収(5 分)

- 試験機材

タブレット端末、ヘッドセットを使用して実施した。

タブレット端末が起動しないなどの事象に対しては、機器の交換等を行った。



※タブレットのサイズ

幅 197.97×奥行き 119.82×高 8.95mm 重さ約 320g



※装着時にマイクは左側にあります。

タブレット端末

スマートフォンや、学校で使用しているタブレット端末と親和性が高く、フォントサイズの調整機能を備えた機器で試験問題を提供した。その結果、文字拡大を希望する受験者が、同一教室において、同一の時間帯に他の生徒と一緒に受験することが可能となった。また、録音確認機能、万が一の機器不良に備え、マイクからの主音声だけでなく、タブレット端末の内蔵マイクからの録音も同時に行い、どちらかの音声で採点できるバックアップの仕組みと採点マニュアルを整えている。

ヘッドセット

ヘッドセットの構造について研究を行い、人間の声に対する遮音性や装着感について検証の上、導入を決定した。その結果、装着感の向上や装着する作業が簡単になったことで、受験者負担の軽減にもつながっている。

- 試験監督者等

(表1)を基本として、人員を派遣した。

(表1)

1・2年 合計学級数	試験監督者等の派遣人数 (目安)	ユニット数 (同時受験が可能な人数)	一単位時間の中で 同時実施が可能な 学級数
4以下	2～5名＋技術者2名	1ユニット(40名)	1学級
5～10	6～9名＋技術者3名	2ユニット(80名)	2学級
11～14	12名＋技術者4名	3ユニット(120名)	3学級
15～20	15名＋技術者5名以上	4ユニット(160名)	4学級

2) 実施校からの情報収集

オンラインフォーム、直接の架電、メールによるコミュニケーションを活用し、実施当日に必要な学校の情報(会場の設備状況、受験生の人数、特別措置を必要とする生徒の有無など)を効率的に収集し、スムーズな試験実施に向けた準備を進めることができた。

3) 特別措置を必要とする生徒への対応

令和5年度の中学校英語スピーキングテスト ESAT-J YEAR 1, YEAR 2 では、生徒の多様なニーズに応えるため、生徒一人一人のニーズに合わせた特別措置を実施した。

ア 全体への対応

- ・ 外国人生徒等に対応するために、全ての漢字にルビを表示した。
- ・ 色覚特性がある生徒に対応するために、イラストは白黒で表示した。

イ 個別の生徒への対応

- ・ 音声の聞き取りに困難を感じる生徒に対し、音声原稿を文字化した問題冊子を用意した。
- ・ 視覚障害のある生徒に対し、タブレット上で文字の拡大表示を行うことができるようにした。
- ・ 様々な障害や特別なニーズがある生徒に対して時間を延長したり、不登校の生徒及び集団でのテスト受験が困難な生徒などが可能な限り力を発揮できるよう学校と緊密に連携をとり別室を用意するなど、テストに集中しやすい環境を提供した。

4) 試験監督者トレーニング

試験監督者のスキル向上と試験運営の質の確保を目的として、マニュアルを基にした対面及びオンラインでのトレーニングを実施した。このプロセスには、試験の流れ、受験者対応、不正行為の防止策、児童保護に関する取組など、試験運営に必要な各種知識と技術が含まれていた。これらのトレーニングにより、実施前に必要な情報や当日の動きを理解した上で、実施当日を迎えることができた。また、実施期間中に試験監督者が経験を積むことで、スムーズな運営となった。

5) 問合せへの対応

学校からの様々な問い合わせに迅速かつ的確に対応するため、専用の電話による窓口を設けた。この窓口では、試験に関する疑問や実施上の不明点、特別措置に関する相談など、幅広い問合せに対応し、不安や懸念を解消するサポートを提供した。

3. 中学校英語スピーキングテスト ESAT-J YEAR 1/YEAR 2 結果

令和5年度の中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J YEAR 1/YEAR 2)の結果返却に関して、以下のプロセスを計画している。

1) 結果返却

ア 区市町村教育委員会/各学校向け結果公開

日程: 令和6年(2024年)4月以降

方法: 登録サイト上に設置予定の学校向けページ(仮称)を通じて、参加した全生徒の結果一覧を公開する。これにより、学校は都全体及び各学校の成績を確認し、生徒へのフィードバック提供が可能となる。

イ 個人向けテストレポート

日程: 令和6年(2024年)4月以降

方法: 各生徒には、結果やフィードバックが記載されたレポートを提供する。

2) 結果分析

テスト結果の全体的な傾向、強みと弱点の領域、さらには特定の学習目標に対する生徒の達成度について分析し、令和6年(2024年)5月以降、結果を東京都教育委員会に報告する予定である。

4. 中学校英語スピーキングテスト ESAT-J, ESAT-J YEAR 1/YEAR 2に関する情報提供

1) サンプル問題

ESAT-J、ESAT-J YEAR 1 及び ESAT-J YEAR 2 のサンプル問題を作成し、東京都教育委員会ウェブサイトに掲載した。

2) テスト活用のための情報提供

ESAT-J、ESAT-J YEAR 1 及び ESAT-J YEAR 2 に関する保護者・生徒用のリーフレットを東京都教育委員会ウェブサイトに掲載した。

5. まとめ

令和5年度の事業開始に当たっては、東京都教育委員会と連携し、強固な運営体制を構築した。

事前に全ての中学校に対し、フォームによる調査及び電話により直接連絡を行い、それぞれの事情を把握した上でテストを実施した点と、サンプル問題を事前に公表したことにより、令和5年度の ESAT-J YEAR 1 と ESAT-J YEAR 2 導入に際しては、大きな混乱は見られなかった。

6. 令和6年度実施に向けた準備状況

令和6年度 ESAT-J 実施に向けて、以下の準備を行った。

- 会場：東京都教育委員会と連携し、新しい会場の開拓と確保を行っている。
- 試験監督者：令和5年度の経験やフィードバックを最大限生かし、ESAT-J 及び ESAT-J YEAR 1, YEAR 2 の安定した質の高い試験監督者の育成を進める。マニュアルの改善やオンライン/対面トレーニング内容の充実を図る。
- コールセンター：先生や生徒・保護者からの質問を受けるための窓口となるコールセンターを開設する。
- 登録サイト：生徒・保護者と学校や教員の皆様にとって利便性が高く、安全な ESAT-J 専用の受験登録サイトの構築を目指す。
- 問題作成の研究：令和5年度までに実施された ESAT-J との継続性を念頭に置き、YEAR 1, YEAR 2 の内容に加えて、受験者の配慮についても調査・研究を行っていく。

- 情報提供:ESAT-J の広報で活用できるコンテンツやデザインを準備するとともに、教員対象の説明会の準備も進めている。
- 結果活用:YEAR 1/YEAR 2 の結果を分析し、教員と生徒にとって、有益な情報提供の準備を進めている。
- タブレット等:使用機器については、画像表示やテスト開始前の指示に関する動画搭載など、アプリケーションを更に強化し、受験者の利便性と快適性を高めるための改善を行う。

中学校 3 年生を対象とする中学校英語スピーキングテストの令和 6 年度の
実施状況がわかるもの

令和 6 年度中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J YEAR 3) の実施状況について

I 実施スケジュール

日程概略

4 月から 6 月まで	区市町村教育委員会・中学校向け説明会
5 月から 7 月まで	生徒・保護者用リーフレット、申込マニュアル等の配布
7 月 11 日から	受験申込 (9 月 20 日まで)
	※受験上の配慮申請 (9 月 6 日まで)
11 月 24 日	本試日
11 月 27 日から	予備日の申込み手続き開始 (11 月 29 日まで)
12 月 15 日	予備日
1 月 7 日	結果等の通知 (11 月 24 日実施分)
1 月 24 日	結果等の通知 (12 月 15 日実施分)

II スピーキングテストの実施概要・結果

1 実施概要

- (1) 申込者数
76,355 人 (令和 5 年度 76,270 人)
- (2) 受験者数
70,741 人 (令和 5 年度 71,205 人)
- (3) 会場
- | | | |
|-------------|--------|-------------|
| ア 11 月 24 日 | | |
| 都立学校 | 191 会場 | 民間会場等 39 会場 |
| イ 12 月 15 日 | | |
| 都立学校 | 2 会場 | 民間会場等 13 会場 |

2 実施結果

- (1) 平均スコア
68.3 (令和 5 年度 65.2)
- (2) 段階別評価の分布状況 ※ () は、令和 5 年度の数値

段階別評価	スコア	分布 (%)
A	100~80	31.3 (25.3)
B	79~65	31.6 (29.2)
C	64~50	22.2 (26.0)
D	49~35	9.7 (11.9)
E	34~1	4.6 (6.5)
F	0	0.5 (1.1)

(小数第 2 位の四捨五入の処理により、合計が必ずしも 100.0%にならない。)

Ⅲ スピーキングテストの実施体制等

1 時程等

時刻（時間）	前半試験実施	後半試験実施
正午から 午後0時30分まで	会場到着・受験教室入室 （必要に応じて軽食）	
午後0時30分から 午後1時まで	試験会場着席 スマートフォン等の提出	
午後1時から 午後2時10分まで	テスト実施	自習
午後2時10分から 午後2時25分まで	教室待機	教室待機
午後2時25分から 午後3時30分まで	自習	テスト実施
午後3時30分から 午後3時40分まで	退出	

2 試験当日の運営体制等

(1) 都教育委員会

- ア 庁内において、実施本部を設置し、進行管理、生徒・保護者・会場からの問合せ対応（実施後、電話による個別の申し出にも対応 7件）
- イ 会場において運営・実施状況の把握や確認

(2) 事業者

- ア 各会場を運営（試験監督、警備員、看護師等含む）
- イ 問合せ窓口において、生徒・保護者等からの連絡に対応

3 区市町村教育委員会との連携

- (1) 中学校における受験申込や各種申請手続
- (2) 中学校から連絡のあった個別の状況の報告

Ⅳ 採点等

1 採点者

高度な英語力と英語教育に関する専門性を有する者が、事前に本テストの採点に係る研修を受講し、基準を満たした者が採点

2 採点体制

- (1) 情報管理を徹底した環境において、採点基準に従い、複数の専任採点者による採点・審査を経て評価しており、都教育委員会が採点状況と採点結果を確認
- (2) 解答音声データの確認を徹底

3 結果等の通知

(1) 提供内容

- ア ESAT-J GRADE
 - イ 参考 CEFR-J レベル
 - ウ スコア
 - エ 該当 GRADE に係る CAN-DO STATEMENTS
 - オ 学習アドバイス
 - カ ESAT-J GRADE 別 教材等紹介ページの二次元コード
 - キ 今後の学習参考資料
 - ・設問ごとのそれぞれの評価に対応した複数の解答例
- ※ア～カは、個人レポートに記載

(2) 音声データ提供

申請手続きは、令和7年3月より開始

V 実施状況等

1 試験開始・終了時刻の遅延

(1) 主な要因

機器の不具合など

(2) 会場数

3会場

2 再度の受験機会の設定

(1) 主な要因

機器の不具合（疑い例を含む）、現場対応の誤りなど

(2) 対象者

255人

(3) 対応

受験者及び保護者に説明・謝罪の上、希望者に対し再度の受験機会を設定

VI 来年度の実施に向けて

- ・ ESAT-J 専用ポータルサイトの利便性の向上と機能の充実
- ・ 中学校等における授業改善に活用するための各種資料の充実
- ・ 来年度の実施予定

本試日：令和7年11月23日、予備日：令和7年12月14日

中学校 3 年生を対象とする中学校英語スピーキングテストの試験が行われた会場
数及び会場名（令和 6 年度）

1 会場数

	会場数
本試日	2 3 0
予備日	1 5

注 会場名は、令和 6 年度実施報告書に記載予定

中学校 3 年生を対象とする中学校英語スピーキングテストにおいて、都教育委員会が試験会場に派遣した職員数（令和 6 年度）

（単位：人）

派遣した職員数
6 0 5

中学校 3 年生を対象とする中学校英語スピーキングテストにおいて、事業者が各会場に配置した人員数（令和 6 年度）

基本協定及び実施協定等に基づき、事業者が必要人員を配置することとしているため、事業者からの報告を求めている。

中学校 3 年生を対象とする中学校英語スピーキングテストにおいて、事業者が各会場に配置した人員に係る人件費（令和 6 年度）

基本協定及び実施協定等に基づき、事業者が必要人員を配置することとしているため、事業者からの報告を求めている。

中学校英語スピーキングテストについて、中学校1、2年生における試験のために出勤を余儀なくされた中学校教員の人数と人件費（令和6年度）

試験は学校と希望日を調整した上で実施している。

都内公立学校における非常用発電機等及び断水時の トイレ対策を確保している割合

(1) 小学校・中学校

(単位：校、%)

区 分	避難所指定学校数 A	確保学校数 B	割合 B/A
非常用発電機等	1,879	1,763	93.8
断水時のトイレ対策	1,879	1,846	98.2

(2) 高等学校

(単位：校、%)

区 分	避難所指定学校数 A	確保学校数 B	割合 B/A
非常用発電機等	163	163	100.0
断水時のトイレ対策	163	99	60.7

(3) 特別支援学校

(単位：校、%)

区 分	避難所指定学校数 A	確保学校数 B	割合 B/A
非常用発電機等	56	56	100.0
断水時のトイレ対策	56	53	94.6

注1 文部科学省「避難所となる公立学校施設の防災機能に関する調査」による。

(令和4年12月1日現在)

注2 「小学校・中学校」には、義務教育学校及び中等教育学校（前期課程）を含む。

注3 「高等学校」には、中等教育学校（後期課程）を含む。

注4 「断水時のトイレ対策」の「確保学校数」は、マンホールトイレや、プールの水や雨水等を洗浄水として使用できるトイレ等を含む断水時のトイレ対策を実施している学校の数である。

警視庁職員の新規採用者・退職者の男女比率の推移
(令和3年度～令和5年度)

1 新規採用者

	警 察 官		警察行政職員	
	男性比率	女性比率	男性比率	女性比率
令和3年度	74.6%	25.4%	30.9%	69.1%
令和4年度	73.3%	26.7%	33.0%	67.0%
令和5年度	70.9%	29.1%	27.7%	72.3%

2 退職者

	警 察 官		警察行政職員	
	男性比率	女性比率	男性比率	女性比率
令和3年度	89.2%	10.8%	61.4%	38.6%
令和4年度	89.3%	10.7%	50.4%	49.6%
令和5年度	83.5%	16.5%	45.2%	54.8%

※ 各年度の退職者で退職手当の支給を受けた者の合計から算出

主な消防力現有数の年度別推移（過去5年間）

年度	基準(A) 現有数(B) 充足率(B/A)		区						分			
			署所	ポンプ車	化学車	はしご車	救急車	救助車	照明 電源車	水難救助車 指揮統制車 救出救助車 (防災機動車)	消防艇	指揮隊車 (救助先行車)
令和2年度	基準	消防力の整備指針 ・ 消防力配備の基準	318	494	57	91	313	36			13	
		現有数	300	489	48	86	270	30 (6)	10	15	9	93
	充足率	消防力の整備指針 ・ 消防力配備の基準	94.3	99.0	84.2	94.5	86.3	83.3			69.2	
令和3年度	基準	消防力の整備指針 ・ 消防力配備の基準	318	494	57	91	313	36			13	
		現有数	300	489	48	86	271	30 (6)	10	15	9	93
	充足率	消防力の整備指針 ・ 消防力配備の基準	94.3	99.0	84.2	94.5	86.6	83.3			69.2	
令和4年度	基準	消防力の整備指針 ・ 消防力配備の基準	318	494	57	91	313	36			13	
		現有数	300	489	48	86	271	30 (6)	10	16	9	93
	充足率	消防力の整備指針 ・ 消防力配備の基準	94.3	99.0	84.2	94.5	86.6	83.3			69.2	
令和5年度	基準	消防力の整備指針 ・ 消防力配備の基準	318	494	57	91	313	36			13	
		現有数	300	489	48	86	274	30 (6)	10	20	9	93
	充足率	消防力の整備指針 ・ 消防力配備の基準	94.3	99.0	84.2	94.5	87.5	83.3			69.2	
令和6年度	基準	消防力の整備指針 ・ 消防力配備の基準	318	494	57	91	313	36			13	
		現有数	300	489	48	86	275	30 (6)	10	20	9	94
	充足率	消防力の整備指針 ・ 消防力配備の基準	94.3	99.0	84.2	94.5	87.9	83.3			69.2	

- (注) 1 「消防力配備の基準」は、市町村が火災の予防、警防及び鎮圧並びに救急業務等を行うために消防庁告示で定めた「消防力の整備指針」に準拠しつつ、東京都の地域特性を加味した東京消防庁独自の基準である。
平成31年3月に「消防力の整備指針」が一部改正されたことを受け、東京消防庁では「消防力配備の基準」の見直しについて検討を行い、令和元年11月に「消防力配備の基準」を一部改正した。
- 2 署所の数は、消防署81、分署3、出張所208、即応対処部隊1、消防救助機動部隊5、航空隊(江東、立川)2の合計数である。救急機動部隊待機所及び分駐所(空港ターミナル、原町田)は常時運用していないことから、署所の数には含まない。
- 3 ポンプ車の数は、平成26年度まで化学車の数を含んで計上しているが、平成27年に総務省消防庁による統計方法が変更されたことから、ポンプ車の数には化学車の数を含まない。
- 4 救急車の基準数は、救急需要及び人口推移の予測に基づき、令和12年(2030年)までの中期目標として設定した。
- 5 救助車の現有数は、第九消防方面本部消防救助機動部隊に配置する救助車(震災対策用)を現有数に計上する。括弧内は震災対策用及び航空機積載用の保有数を示す。
- 6 防災機動車は、平成13年度以降、水難救助車、指揮統制車(無償使用車両含む)及び救出救助車に細分したことから、合算した数値を計上した。
- 7 各年度とも年度末の現有数を基準とする。

特別区消防団分団本部施設の現況（過去 5 年間）

年	全 体 数	整 備 済	未 整 備
令和 2 年	4 3 9	3 6 3	7 6
令和 3 年	4 3 9	3 6 5	7 4
令和 4 年	4 3 9	3 7 2	6 7
令和 5 年	4 3 9	3 7 8	6 1
令和 6 年	4 3 9	3 8 1	5 8

各年 1 2 月 3 1 日現在

※ 分団本部施設

延べ面積 8 0 m²を基準として、以下の機能を有する施設。

格納庫、訓練・待機室、情報収集用テレビ・レコーダー

電気及び上下水道設備（流し台・トイレ）

東京消防庁の定数と実数の推移（過去 5 年間）

		定数	実数	過欠
令和 2 年 4 月	消防吏員	18,238 人	18,032 人	△206
	消防吏員以外	423 人	407 人	△16
	合計	18,661 人	18,439 人	△222
令和 2 年 1 0 月	消防吏員	18,238 人	17,912 人	△326
	消防吏員以外	423 人	408 人	△15
	合計	18,661 人	18,320 人	△341
令和 3 年 4 月	消防吏員	18,238 人	18,020 人	△218
	消防吏員以外	423 人	418 人	△5
	合計	18,661 人	18,438 人	△223
令和 3 年 1 0 月	消防吏員	18,238 人	18,219 人	△19
	消防吏員以外	423 人	415 人	△8
	合計	18,661 人	18,634 人	△27
令和 4 年 4 月	消防吏員	18,233 人	18,233 人	0
	消防吏員以外	422 人	422 人	0
	合計	18,655 人	18,655 人	0
令和 4 年 1 0 月	消防吏員	18,233 人	18,207 人	△26
	消防吏員以外	422 人	416 人	△6
	合計	18,655 人	18,623 人	△32
令和 5 年 4 月	消防吏員	18,262 人	18,258 人	△4
	消防吏員以外	422 人	420 人	△2
	合計	18,684 人	18,678 人	△6
令和 5 年 1 0 月	消防吏員	18,262 人	18,228 人	△34
	消防吏員以外	422 人	408 人	△14
	合計	18,684 人	18,636 人	△48
令和 6 年 4 月	消防吏員	18,351 人	18,312 人	△39
	消防吏員以外	422 人	417 人	△5
	合計	18,773 人	18,729 人	△44
令和 6 年 1 0 月	消防吏員	18,351 人	18,267 人	△84
	消防吏員以外	422 人	411 人	△11
	合計	18,773 人	18,678 人	△95

※育児短時間勤務職員及び再任用短時間勤務職員は勤務時間に比例した換算を行い、それぞれ四捨五入している。

救急隊員の実数と救急隊数の推移（過去10年間）

	救急隊員数（人）	救急隊数（隊）
平成27年度	2, 2 1 1	2 4 0
平成28年度	2, 2 4 4	2 4 3
平成29年度	2, 3 1 2	2 5 1
平成30年度	2, 3 4 0	2 5 3
平成31年度	2, 4 9 6	2 5 9
令和2年度	2, 5 8 7	2 6 7
令和3年度	2, 6 0 4	2 7 0
令和4年度	2, 6 6 8	2 7 1
令和5年度	2, 7 3 9	2 7 1
令和6年度	2, 8 5 5	2 7 4

各年4月1日現在

東京消防庁における公務災害の状況（過去 5 年間）

	請求件数	
	精神疾患	精神疾患以外
令和 2 年度	0	4 7
令和 3 年度	3	6 6
令和 4 年度	4	4 6
令和 5 年度	2	7 2
令和 6 年度	0	6 4

	認定件数	
	精神疾患	精神疾患以外
令和 2 年度	0	4 5
令和 3 年度	2	6 5
令和 4 年度	1	4 5
令和 5 年度	0	7 0
令和 6 年度	0	5 9

※令和 6 年度については、令和 7 年 2 月 2 5 日現在